資料 No.1

令和４（2022）年度　下半期
みよし市障がい者相談支援事業

地域課題報告書

（令和４（2022）年８月から令和５（2023）年１月まで）

令和５（2023）年２月

みよし市基幹的相談支援センター

みよし市障がい者相談支援事業　地域課題報告書

１　はじめに

相談支援事業（個別支援会議、事例検討会、市委託相談支援専門員が対応する個別ケースを含む）で確認できた個別のニーズ、課題を地域づくりにつなげるシステムとして自立支援協議会（以下、「協議会」。）が設置されている。この協議会運営の参考にするため、相談支援事業で確認できた地域課題を一覧にまとめた報告書を作成する。

２　個別支援会議の定義と相談支援事業から協議会での協議までの流れ

（１）みよし市の個別支援会議の定義

１人の障がい者（児）の支援について、本人及び家族、サービス提供事業所、学校、病院、行政等のうち、関係機関が３か所以上集まって協議を行ったものをいう。

（２）相談支援事業から協議会での協議までの流れ

相談支援事業によって相談支援専門員が気づいた地域課題は、基幹的相談支援センター担当に報告があり、基幹的相談支援センター担当は報告のあった地域課題を一覧にし、基幹的相談支援センター会議にて確認する。基幹的相談支援センター会議で確認した地域課題は自立支援協議会（以下「協議会」という。）運営会議で共有し、協議会としてそれら課題の解消に向けて、いつ、誰が（どこで）取り組むかを話し合う。

【流れイメージ】
① 相談支援事業（個別支援会議、事例検討会、市委託相談支援専門員対応個別のケース）
↓〔提出〕個別支援会議結果報告書、事例検討会記録、市委託相談支援専門員聞き取り記録
基幹的相談支援センター担当のケース共有
②基幹的相談支援センター担当
↓〔提出〕地域課題一覧
③基幹的相談支援センター会議（参加者：基幹的相談支援センター担当、地域アドバイザー、福祉課）
↓〔確認〕協議会運営会議への報告内容をまとめる
④協議会（運営会議）
地域課題の解消に向けて検討

３　基礎データ（個別支援会議）

（１）個別支援会議実施月と担当事業所

年	2022					2023	計
月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	
回数	1	0	0	4	2	4	11

事業所名	はたらく	キッズ	わらび	OK	しおみ	社協	計
回数	0	5	0	2	3	1	11

（２）対象者の年代ごとの個別支援会議開催回数

年代 (年齢)	未就学 (0～6)	学齢期 (7～18)	成人① (19～39)	成人② (40～64)	高齢 (65 歳以上)	計
回数	0	2	4	5	0	11

（３）対象者の障がい別の個別支援会議開催回数

障がい	知的	身体	精神	難病	重心	発達	その他	計
回数	6	1	2	1	0	1	0	11

【解説】
新型コロナウイルスの感染状況により時期によって開催のしやすさが異なったため、開催月にばらつきがみられた。個別支援会議の報告をしやすくするため報告システムを見直したが、大きな変化は見られなかった。さらなる見直しを検討していく。

（4）個別支援会議で確認できたケース固有の課題

地域課題の他、ケース固有の課題も確認できたため、以下に記載する。

概要	現時点での課題
氏名：女性　年齢：56 歳 障害名：ＡＬＳ	本人が機能低下について受け止めることができない。
氏名：男性　年齢：55 歳 障害名：自閉症スペクトラム	本人の日常生活への活動意欲が乏しい。
氏名：男性　年齢：30 歳 障害名：知的障がい　身体障害	近隣の外出の際の移動手段の確保。
氏名：男性　年齢：49 歳 障害名：知的障がい	日中活動場所が休みである月曜日やグループホーム職員が不在になる時間帯の過ごし方が定まっていない。
氏名：男性　年齢：30 歳 障害名：知的障がい　身体障害	ヘルパー事業所の都合もあり、支援内容が制限されてしまっている。
氏名：女性　年齢：57 歳 障害名：統合失調症	独り暮らしの経験がなく、親が施設に入所した後の生活に不安がある。
氏名：女性　年齢：14 歳 障害名：難病	自分のことを言語化する機会が少なかった（特に体調面） ため、アウトプットが苦手。聴覚にも障がいがあるため、言語理解が低い。
氏名：女性　年齢：23 歳 障害名：自閉症スペクトラム	家族の本人に対する理解が乏しい。
氏名：男性　年齢：19 歳 障害名：自閉症	家族の行動障害に対する理解が乏しい。

４　基礎データ（市委託相談支援専門員から報告のあった個別ケース）

（１）　令和４（2022）年８月～令和５（2023）年１月の間で、市委託相談支援専門員から報告のあった

個別ケースと担当事業所

事業所名	OK	しおみ	社協	はたらく	キッズ	わらび	計
件数	16	9	14	5	22	21	87

５　基礎データ（事例検討会）

令和４（2022）年８月・９月・10月・11月・12月に事例検討会を開催。ケース概要は以下の通り。

開催月	概要	地域課題
８月	２０代女性。 発達障害、精神保健福祉手帳２級 『「でも」「どうせ」「だって」が口癖の彼女が一歩踏み出せる手立てを考えたい』 小、中学校時代からいじめを経験し、辛い学生生活を送る。高校は１校目を中退、通信制高校２校を経て高校を卒業した。居場所を求めて転々とするが、自分の生い立ちを悲観し、他者と比べて嫉妬し、全て自分ではなく周りが悪いと決めつけ、母親にその気持ちを毎日ぶつける日々である。	障がいのある若者が安心して過ごせる場所が少ない。
９月	事例提供者が新型コロナウイルスに罹患し、急遽中止。	
10月	１０代男性。 難病、療育手帳Ａ判定 『本人の現在の支援状況と将来の自立構想が適正かどうか』 現在市内小学校特別支援級 ５ 年生。中学校から特別支援学校を予定している。将来の生活に向けて生活介護事業所等の見学をしているが、この方向性で良いのか迷いがある。	保護者の障がい理解に対する周知、啓発が不足している。
11月	３０代、男性。 発達障害、精神保健福祉手帳２級所持。 『みんなが合わないと思っている仕事を続けると選択した本人に、就労支援員として何ができるのか』 体調を崩し、３週間ほど休職。本人、両親、相談支援専門員、就労支援員で面談をした。会社とも調整を行って復職し、現在に至るが、復職後も欠勤や早退があり、会社は雇用継続に後ろ向きになっている。 今後、就労支援員としてどのように支援するか迷っている。	就労支援員と相談支援専門員の相互理解が不足している。

12月	40代、男性、 発達障害、精神保健福祉手帳申請中 『生きがいを持った生活をするために本人の想いを尊重しつつ、本当のニーズを引き出す手立てを探りたい』 令和２（2020）年12月に父親が、令和３（2021）年12月に母親が他界する。両親をなくして１人になり、寂しく生きがいをなくしている。本人が生きがいを持って生活するため、本当のニーズを引き出すにはどのように支援すると良いか分からない状況である。	障がいを持った人の仲間づくりに繋がる資源が少ない。
１月	４０代、男性 知的障がい、療育手帳Ｂ判定 『親亡き後、現在居住している自宅で継続的に生活できるように、今できる支援を検討していきたい』 面倒見の良かった会社の社長が他界し、働くことができなくなる。現在兄と共にひきこもり状態にあり、収入は母の遺族年金のみ。高齢の母が亡くなった後のことを考えることができない状態である。	高齢の親とひきこもり状態にある子ども、いわゆる８０５０問題の難しさ。

６　相談支援事業で確認できた地域課題

相談支援事業（個別支援会議や事例検討会、市委託相談支援専門員から報告のあった個別のケースを含む）により確認できた地域の課題を「みよし市障がい者計画」の施策項目別にまとめた。

※地域課題の抽出項目

個別支援会議　＝　個　／　事例検討会　＝　事　／　個別のケース　＝　ケ

相談支援連絡会　＝　相

（１）障がい理解

①啓発・広報活動の推進、②福祉教育等の推進、③障がい当事者団体、家族会等の活動の支援、④ボランティア活動の促進、⑤その他

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
①	必要性を感じず福祉サービスや相談支援専門員と繋がってこなかった在宅の障がい者に早期に繋がる手段が少ない。		高齢	ケ

②	重症児ではないが医療的ケアがあり地域校に通っている児童の支援が乏しい。		学齢期	個
③	放課後等デイサービス事業所の保護者支援の議論が不十分。		学齢期	ケ
【概要】 本人や家族が高齢になるまで支援者に繋がることなく過ごしてきたケース（8050 問題）が増えてきている。また、医療的ケア児を地域で受け入れるための体制が不十分であることが挙げられた。				

（２）地域生活支援

①相談支援体制の整備、②福祉サービスの充実、③福祉サービス事業所の人材育成、④その他

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
①	希死念慮の強い方に対しての、早期発見の体制が整っていない。		成人②	ケ
	緊急時に対応できる宿泊施設が対応できていない。		成人②	ケ
	高齢の保護者と同居する障がい者の世帯に対する支援体制が不十分である。		成人②	個
	精神疾患がある障がい者が一人で暮らしていけるような支援体制の整備		成人②	個
②	市内に一人暮らしの体験ができる場所がない。	2	学齢期	ケ
	喀痰吸引研修を受けている事業所が不足している。		成人②	個
	来年度以降、身体障がい児を受け入れできる放課後等デイサービス事業所が市内に無くなってしまう。		学齢期	ケ
	市内に就労継続支援Ｂ型事業所が少ないため選択できない。		成人①	ケ
	体験利用できる宿泊施設が無い。		成人②	ケ
	身体障がい児・者の居場所が少ない。			相
	身体障がい者が安心して宿泊できる施設が少ない。			相
	市内及び近隣にグループホームが少ないため選択できない。	4	成人① 成人②	個 ケ
	近隣に移動支援を行うヘルパー事業所が不足しているため、外出の機会が減少している。		成人①	個
	高齢者と障がい者の家族が一緒に入居できる施設がない。		成人②	個
	強度行動障害のある人を受け入れる事業所が不足している。	2	成人①	個
	放課後等デイサービスを利用している児童が高校卒業後に夕方の時間を過ごせる場所がない。		学齢期	ケ
③	喀痰吸引研修を受けている職員が不足している。			
	エンパワメントの視点を持ってサービスを行う人材が不足している。		成人②	個
	日中支援型グループホームの職員の質が確保されていない。		成人②	個
④	グループホームの日中の見守り体制がないと本人がグループホーム内で過ごすことができないため、外出しなくてはいけない事業所が多い。		成人②	個

【概要】
グループホームが市内に少ないこと、体験や緊急時に利用できる宿泊施設がないことが課題として多く挙がってきている。また、高齢の保護者と障がい者が一緒に暮らし続けたいというニーズもあり、重層的支援体制整備事業の検討に値するケースと思われる。
身体障がい児・者の居場所や強度行動障がい児・者の受け入れができる事業所が不足していることは上半期に引き続き報告が挙がっている。

（３）療育・教育

①保健・医療・教育・福祉の連携、②障がい児の支援体制整備、③インクルーシブ教育システムの推進、④その他

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
①	重症児ではないが医療的ケアがあり地域校に通っている児童の支援が乏しい。		学齢期	個
②	重症児ではないが医療的ケアがあり地域校に通っている児童の支援が乏しい。		学齢期	個
	就労しているシングルマザーの育児に対する余裕がない。		学齢期	ケ
	障がいを持つ親の育児に対する余裕がない。		学齢期	ケ
	障がいを持つ親の養育能力が低く、支援体制が整っていない。	２	学齢期	ケ
③	医療的ケアが必要な生徒が通う地域校の教員が考える合理的配慮がどこまで浸透しているかわからない。	２	学齢期	個 ケ

【概要】
医療的ケアが必要な児童に対しての支援が乏しいことが課題として挙がってきている。また、シングルマザーで育児に対する余裕がないケースや障がいがあることによって養育能力が不足しているケースがあり、児童の養育に影響が出てきていることも報告された。

（４）雇用・就労

①就労支援体制の構築、整備、②障がい者雇用の促進、③福祉的就労場所の確保、④その他

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
①	雇用の継続ができなかったことで社会との接点を失い、生活意欲の低下を招いている。		成人②	個

【概要】
一人暮らしの障がい者が離職後に社会との接点を失い、意欲と共に生活力の低下を招いているケースが報告された。

（５）保健・医療

①障がい・疾病等の予防、②障がいの早期発見・治療の支援、③精神保健・医療施策の推進

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
①	希死念慮の強い方に対しての早期発見の体制が整っていない。		成人②	ケ
②	希死念慮の強い方に対しての早期発見の体制が整っていない。		成人②	ケ

	必要性を感じず福祉サービスや相談支援専門員と繋がってこなかった在宅の障がい者に早期に繋がる手段が少ない。		高齢	ケ
③	希死念慮の強い方に対しての早期発見の体制が整っていない。		成人②	ケ
【概要】 希死念慮の強い方に対しての支援体制が整っていないこと、福祉サービスや相談支援専門員と繋がっていない在宅の障がい者が早期に支援と繋がる手段がないため、繋がった時には問題が複雑化しているケースが報告された。				

（6）社会参加

①スポーツ・文化活動の参加の促進、②その他

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
【概要】 地域課題として抽出されていない。社会参加の相談に至っていないことが課題ではないかと考える。				

（7）生活環境

①居住環境の整備の促進、②交通等移動の支援の充実、③防災・防犯活動の推進、④その他

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
①	本人ができることも多いが、活動意欲が低下している。		成人②	個
【概要】 意欲が低下することによって、できるはずのゴミ出しを行うことができず、ゴミが溜まりやすくなっているケースが報告された。				

（8）権利擁護

①障がい者差別・虐待の防止、②成年後見制度の利用促進、③コミュニケーション手段の確保、④その他

分類	内容	重複件数	年代	抽出項目
①	強度行動障害の方に対する支援体制が整備されていない。		成人①	個
	虐待通報後の手順やスケジュールが不明確。通報後の体制整備が整っていない。		学齢期	ケ
②	本人ができることは多いが、活動意欲が低い。		成人②	個
【概要】 強度行動障害の方に対する支援が整っていないこと、虐待通報することによって本人の不利益に繋がってしまう可能性があるため、通報をためらうケースが報告された。				

7　報告内容（まとめ）

令和４（2022）年度下半期に開催した個別支援会議は 11 件だった。事例検討会や市委託相談支援専門員から報告のあった個別のケース、相談支援連絡会からも地域課題を集め、地域課題報告書にまとめる方法をとっている。その中で、上半期含めみよし市障がい者自立支援協議会等で検討が必要であると考える内容は以下のとおりである。

（１） 専門的な知識や技術を持つ人の育成・事業所及び人材の確保

昨年度同様、今年度も専門性の高い人材や事業所の不足が多く挙げられた。特に強度行動障害の方や医療的ケアが必要な方は顕著である。強度行動障害については、受け入れることができる事業所が不足しており、事業所の職員体制によって利用できない日があり、満足に利用ができない現状である。また、医療的ケアでは、事業所が喀痰吸引資格を取得するために職員に受講させる研修費用の負担が大きく、資格取得の積極性が失われ、人材育成が困難を極めている。

（２） 居住支援

グループホーム入居希望者が多くなってきていると共に、ニーズの幅も広がっている。特に市内に入居できる日中支援型のグループホームがなく、市外で入居先を探さなければいけない状況である。体験利用できるグループホームも不足しており、支援度が高い人の居住の問題を市内では解決できない状況である。また、緊急時の受け入れ先が決まってはいるが、実際に利用するにあたり、受け入れ態勢が整っていないため、具体的な利用に至っていない。

（３） 家族支援

全国的な社会問題として８０５０問題が広がってきている中、高齢の親と障がいを持つ子の世帯が生活を続けていくことが困難になってきたケースが挙がってきている。多世代で関わる必要があるケースもあるため、障がいの分野だけで関わるのではなく、重層的な支援体制整備が必要となってきている。

８　令和３（2021）年度、課題の取組みについて進捗状況報告

課　題	取　組　場　所　・　進　捗　状　況
教育との連携不足	【児童部会】 昨年度、『児童発達支援事業所よつば』でペアレント・プログラム研修の実施を検討したが、実施には至らなかった。今年度は、児童部会で開催している放課後等デイサービス事業所連絡会で、研修に関して伝達する機会を設けた。必要に応じて研修実施に向け取り組む。
	【基幹的相談支援センター】 ・オンラインで開催される、手をつなぐ親の会の勉強会に協力をしている。 ・今年度、よつばファミリーディーで子育てとペアレント・プログラムに関する講演を実施した。来年度、ペアレント・プログラム勉強会を開催する予定。
障がいに応じた専門的な知識や技術を持つ人	【医療的ケア：医療的ケアさぽーと部会】 学校教育課と協同で三好中学校と北中学校の教員対象の研修会を開催。市内の事業所向け（受け入れている先の事業所・訪問看護）の研修を行った。事業所の確保には至っていない。

の確保や人材育成と事業所の確保	【行動障がい児・者：地域生活支援拠点検討チーム・人材育成検討チーム】 　豊田市で強度行動障害の研修が開催されている。情報収集を行い、市内で開催できる方法を検討する。
	【依存症：精神保健福祉部会】 　日本医療ソーシャルワーカー協会主催「依存症リカバリーソーシャルワーク塾」に参加。事務局で今後の取り組み方について検討中。
就労支援体制の整備・構築	【就労支援部会】 ・障がい者雇用支援セミナーをオンラインで開催。 ・職場体験冊子の改定に向けて協議を行っている。
権利擁護	【人材育成検討チーム】 　虐待防止研修を市内事業所職員を巻き込みながら来年度に開催できるよう検討する予定。

※昨年度から取り組んでいる家族支援、居住支援、ひきこもり支援、不登校の方への支援は各部会にて進捗を管理していくため当項目からは削除しました。

9　総括

今年度、相談支援連絡会を開催することによって、委託相談支援事業所だけでなく、指定特定相談支援事業所の課題も抽出できるような仕組みを作ることができた。また、家族支援等のケースを通じて相談支援専門員の中で重層的支援体制整備に対する意識が高まっており、行政と情報共有しながら共に取り組んでいく必要性を感じている。

さらに、今年度からくらし・はたらく相談センターにて生活困窮者自立支援事業や成年後見支援センター等と福祉関係機関連絡会を月２回の頻度で定期的に開催している。その中で、障がいの分野だけではない地域課題が報告されるようになってきた。このように複雑化した課題を解決していくためには、多分野での協働が必須となっていくため、来年度は将来的に重層的支援体制整備事業を行っていくための準備をする年としていく。

10　阪田氏コメント

働きたいけど働けない。ひきこもりや 8050（9060）問題等、困り感が多い人が年々増えてきている。また、一人暮らしの人が増え、社会的孤立が深刻な問題（課題）になりつつあるという共有（認識）は必要と考える。さらなるネットワークの構築、横連携の強化等、ニーズ（地域課題）をしっかり共有したうえで、多様なニーズに対応できる体制整備が必要である。そのような意味では、くらし・はたらく相談センターを軸に福祉関係機関連絡会の機能強化をすることで、重層的体制整備事業の整備に繋がっていくと考えられる。その人がその人らしく安心して生きていくために成年後見利用促進事業の在り方検討等、本人の意思を中心に添えて考える権利擁護支援の在り方の検討も併せて考えていけると課題が共有され、整備が進むと思われる。

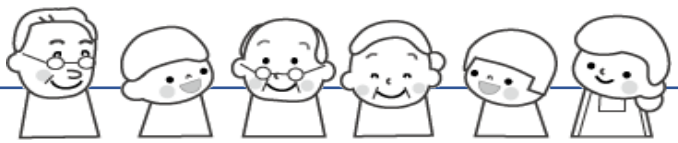
【作成（令和４（2022）年度　みよし市基幹的相談支援センター担当者）】

事業所名	職名	氏名
（一社）みよしはたらく協議会 はたらくサポートセンター	相談支援専門員	小西　浩文
（社福）あゆみ会 しおみの丘	相談支援専門員	秋田　雅治
（社福）あさみどりの風 相談支援事業所わらび	相談支援専門員	深田　明男

【助言】

事業所名	職名	氏名
（社福）無門福祉会	相談支援地域アドバイザー	阪田　征彦

資料 No.2-1



「発達が気になるお子さん」に関するアンケート（案）

Q１　担当しているクラスは全員で何名ですか？　　名

Q２　その中に「発達が気になるお子さん」はいますか？

１、いる（　　名）　　２、いない

Q３「発達が気になるお子さん」に対して、保育上の不安や困りごとがありますか？

１、ある　　２、ない

Q３-２　保育上の不安や困りごととはどのようなことですか？(複数可)

①　相談相手がいない　②対応の仕方がわからない、対応が難しい
③保護者の理解・協力が得られない　④人員不足で十分に対応できない
⑤専門機関との連携がとれない　⑥専門機関が不足している
⑦その他(　　)

Q４「発達が気になるお子さん」の保護者とのかかわりで、不安や困りごとを感じたことがありますか？

１、ある　　２、ない

Q4-２　具体的にどのようなことですか？

Q５「発達が気になるお子さん」の支援に関して、外部関係機関と相談、連携が必要だと感じたことはありますか？(複数可)

①保健センター　②子育て支援課　③学校教育課　④福祉課
⑤医療機関(機関名：　　)
⑥その他(　　)

Q６　ぜひ利用してみたい！

①訪問相談(園のお子さんの様子を見て、助言等を行う)
②研修(具体的に　　)
③その他(具体的に　　)

Q７　あなたのお立場を教えてください。

正規職員　・　臨時職員

御協力ありがとうございました。

資料 No.2-2

R4 年度つながりシート　保護者向けアンケート

１　知った場所

学校教育課の就学相談会	４	学校の先生から	１
保育園や幼稚園の先生から	２０	相談支援専門員から	２
その他（その内容⤵）	２		
・ふたば ・年中時に他園に通う年長児保護者（友人）から聞いた。			

２　書こうと思った理由

内容が魅力的	２	保育園等の先生の勧め	１６
なんとなく		その他（その内容⤵）	１１
・生まれつき障がいがあったため。 ・園の先生からつながりシートの存在を聞いて興味を持ちました。 ・学校に子どもの性格や特性を親から見た視点で伝えられるから。 ・就学への不安を申し出たため。 ・園で工夫して対応してもらっていたことを小学校に上手く伝えたかったから。 ・心配なことが多く、保育園の先生に話したところ、教えてくれた。 ・言葉が遅かったから。 ・子どもの困り事等を理解してほしかったから。 ・ふたばで事前に知っていて、幼稚園からも聞いたので情報として知っといてもらえればと思い書いた。 ・入学に際して不安、心配だった。 ・進学時の不安を小学校の先生に伝えたかったため。			

３　書きにくい点

あった（その内容⤵）	３	なかった	２１
・埋められない項目がいくつかありました。 ・病院に通っているわけではないので、表現することは少し難しく感じたところはあります。 ・服薬中の薬、病名等があると分かりやすいと学校の先生から言われた。			

４、５　効果とその理由

書いてよかった（その理由⤵）	１６	
・一人ひとりの能力、発達具合を調べ、より良い学校生活を送れるようにする感じは受けた。 ・保育園から小学校へと申し送りができ、先生との話もスムーズにできた。 ・学校（先生）とのつながりを持ち、共有ができること。親では気づかないことを知ることができることはすごく助かります。 ・４月、５月頃の懇談会で担任の先生にも子どものことがちゃんと伝わっていたから。つながりシートを出すことで個別の支援計画が作られ、親も確認することができたことが良かった。保護者印等の押印は不要だと感じた。 ・はじめはつながりシートというものがあるのかと思ったのですが、友達に聞くと貰っていないよとのことでしたので、うちだけなんだと不安になりました。しかし、本当に記入して良かったと思います。一年生の不安な息子を先生がすごく気に		

かけてくださり、楽しく学校生活を送っています。
・保育園から小学校へ情報が伝達され、入学時の不安が和らいだのと、子もしっかりと受け入れ体制を整えてくださいました。
・小学校に上がるにあたって、たくさんの不安が細かく伝えることができたので、気持ち的に安心して、子どもを小学校に送り出すことができました。
・マイペースでのんびりとしていて、同じ学年の子の中にいると追いつけないことが多いので、先生に伝えることで気にかけてもらい、それを教えてもらえることはとても助かっています。
・初めての学校生活に不安があったが、入学前に学校側に子どものことを知ってもらうことができてとても良かった。また、園の先生が園生活のことを事細かく記入してくれたこともあり、子どもの様子が把握できたのも良かった。園の先生が成長を喜んでくれたり、学校の先生も子どもを励ましながら指導してくれているようなので、安心して学校生活を過ごせています。
・小学校の先生方への引継ぎはもちろん、私自身も園からのシートを見て、息子のことをより深く知ることができました。就学前に息子の課題や成長が確認できてとてもありがたかったです。
・書いて先生から子どもの行動が困っているサインなのだと分かってもらえ、頭ごなしに怒るのではなく話を聞いてくれたり、まわりにも理解を求めてくれていてありがたいです。
・書面で表すことで、子どもの現在の状況が分かり、他者に伝えやすかった。
・入学前に事前に把握していただけるのは安心。ただ、担任の先生次第でその後のことは変わると思います。今年は良くても来年が不安でいっぱいです。
・学校の先生にも子どものことを細かく支援してもらえるから。
・園と学校が「つながる」ことで本人のために良かった。保護者以外の外園の先生からの視点を伝えてもらう手段として使いやすかった。

書かない方がよかった（その理由⤵）	1	
・小学校の先生が子どもの様子を理解して書かれるきっかけになると思います。		
分からない（その理由⤵）	7	

・小学校の先生は経験に基づいて対応されているように思うので、シートが活かされているのかよく分からない。先生とシートについて話をしたことがない。
・小学校の先生のお役に立てましたか？何かとはみ出しがちな我が子が、学校という環境に適応できる一助になれば幸いです。
・シートを記入し、あらかじめ心配な事を伝えておける安心感はあったが、先生方がシートに目を通して何かアクション等あった訳ではないので、効果はよく分からない。
・シートなしの状況が分からないから。
・書いたことにより、学校での生活がスムーズなのかは分からないと思うが、恐らく先生も注意して見ていただけていると思っている。学校での生活は、問題があると聞いているが、本人が楽しいといい学校に行けているので良いと思っている。
・本当に伝えたいこと、助けてもらいたいことが担任に伝わっていない気がした。つながりシートに関して、保護者と教員で話す時間がないので、書いた意味があったのか分からない。

その他ご意見

資料 No.3

令和４（２０２２）年度　就労支援部会　第３回会議録

開催日　令和５年２月１５日（水）
時間　13：30～15：30
場所　みよし市役所１０１会議室

参加機関（参加者氏名）
相談支援アドバイザー（阪田氏）、西三河北部障がい者就業・生活支援センター（山田氏）、豊田公共職業安定所（松井氏）、みよし市工業経済会（廣瀬氏）、三好特別支援学校（井上氏）、豊田特別支援学校（横山氏）、豊田高等特別支援学校（辻氏）、みよし市教育委員会学校教育課（菅田氏）、わらび（深田氏）、しおみの丘（松平氏）、みよしはたらく協議会（鶴田氏、小西氏）、みよし市福祉部福祉課（児島氏、立石氏）、grasshopper（山口氏）、はたらくサポートセンター（横山氏）、みよし市社会福祉協議会（中村）

議題（協議事項）
１．職場体験冊子について ２．企業が積極的に障がい者雇用を考えるようになるについて ３．就労定着について現状と課題を把握するについて ４．就労支援部会の在り方を検討・整理するについて
主な意見
◆職場体験冊子について ・（松平氏）文字が小さい、見にくい。写真の大きさを統一した方が良い。内容は良いと思う。今月中なら再構成は可能。 ・（深田氏）前回提示されたものは福祉色が強かったが、その点は改善されて良くなったと思う。２ページ目だけ福祉色が残っているので、統一した方が良い。また、イラストより写真にした方が良い部分もある。字体も統一した方が良い。 ・（菅田氏）企業向けといった感じを受けている。子どもたちの率直な気持ちが出ていて良いと思う。仕事内容、実際に取り組んだことを掲載した方が良いのでは。その方が企業は分かりやすいと思う。キャリアパスがあるので参考にしてもらうことは可能。 ・（井上氏）企業の体験先を増やす意味では、企業が分かるように内容を記した方が良い。うちの生徒はできることに差があるので相談になると思う。職員が常駐で就く予定だが、なかなか難しい。そういったことを相談できると良いが、記す必要はないか。 ・（小西氏）メッセージ性が少ない、職場体験をすることによって子どもたちがどう影響があるのか、変わるのか、知らない人が見ると必要性が分かりづらい。「職場体験させてほしい」と思ってもらえる、企業側のメリットが必要。自立支援協議会が力になる、といったメッセージが最初にあると良い。また、表紙に、みよし市や中学校名等を入れなかった理由はあるか。みよし市、という感じがしない。入れないといけないというわけではないが。 　→特に意味はない。中身に書いてあるからという思い。 ・（鶴田氏）きれいにまとまっていると思う。ただ、職業＝産業というイメージが強くなっている。子どもたちが接するのは工場ばかりではない。「こういうことやりたい、やれたらいい。」ということ。他の視点があればいいと感じた。 ◆アンケート調査について ・（鶴田氏）離職していない人とのずれは。続いている人と続かなかった人は個人差なのか。雇用率が上がるのは良いが、定着率、次に行くところがなければ我慢するということになる。福祉事業所が受け皿ではだめ。仮説を立てて調査したことは良いと思う。 ・（小西氏）（相談支援の立場から）ナカポツさんへ聞きたい。離職の理由は９割が人間関係という認識。アンケート結果だと人間関係は大きな問題とはなっていない。就労移

行支援を利用して雇用につながった人を対象にしているからこの結果なのか。
　→（山田氏）精神の方は人間関係というが、掘り下げていくと色々出てくる。知的の方は適合しているのか消化できない。現場は配慮してくれていて、その中で働いている。問題は、注意されたことや賃金について、本人がどこまで理解できているか、先が見えているか、見えていない部分で考えている。想像性が低い。そこをフォローするのが自分たちの仕事、関わりである。調査は分かりやすいが、もう少し理由が聞き取れると良かったと思う。
・（小西氏）「支援付き雇用」と入れると良い。
・（鶴田氏）会社と本人のずれ。期待が負担になる、じゃあ配慮、それも違う。期待されなくなることもやりがいにつながらない。一部の人でも褒めてくれたら頑張れる。働くことに本人たちがやりがいを見つけられるか。それは障がいあるなしに関わらずだと思う。
◆企業が積極的に障がい者雇用を考えるようになるについて
・（松井氏）セミナーについては、第一回目に参加していない。第二回目は、どこでもやっている内容ではなく、参加者同士の時間も有意義なものだった。もう少し参加企業が多いとなお良かった。
・（廣瀬氏）企業がどういうことを考えているのか。知ろうとするなら、投げかけて回答を得ることはできる。自分はここで答えられるような立場にない。
・（豊田特別支援学校横山氏）卒業後、企業でお世話になる生徒は少ない。この１０年、みよし市の生徒はない。現在中学部３年生で希望している生徒がいる。来年度６月から実習でお世話になるだろう。
◆今後の就労支援部会について
・（山口氏）部会の方向性。障がいに限らずどう支援するか、という流れになっている。みよし市では動き始めている。幅広く、やりづらいなど課題が多い。各現場で困っていること、家族で支援が必要ということはあるか。
・（辻氏）生徒は障がいがありながらも頑張っているが、家族が働けないということはある。通学にかかるお金、実習費用など、保護者と相談しないといけない家庭はある。自分たちの役割りとして、福祉の支援員につなぐ、制度を紹介するなどしている。何とかやれるようにしたいが、解決できないときは、みよし市の相談員や市福祉課等と学校でケース会議を開催している。ケースによってはどこに相談して良いか分からないときもある。
・（深田氏）ケースごとで課題等は違う。事例を通してひとつずつ、勉強会などみんなで考える場を設けることで、いろんな視点が入る。部会のメンバーは障がい分野の方々。高齢、企業、就労継続支援の事業所の視点やシルバーも。配慮のいる方の働くを考えたとき、招集するメンバーを考えて、事例検討会を開催する。
・（阪田氏）少子化、高齢化、ひとり世帯、働き方改革など、社会あり方が多様化している。一番の課題は孤立化。だから苦しい。いかに防ぐか、回復させるかをみんなで考えることが大切。人はひとりでは生きられない。本人はそこに気が付かない。気が付くようにケース会議等を行い、情報共有をする、その積み重ねが大事。
・（小西氏）精神保健福祉部会、引きこもり連絡会どちらも、働くがキーワードになっている。共通課題としてうまく絡められないか。
・（深田氏）個別ケースを出して、事例を提供してもらい一緒に考える。お互いの課題が見えてきたら、部会で取り組むことが分かる。企業に入ってもらうのも良い。
　→（山口氏）共有はしていかないといけない。どうやって挙げていくか。就労継続支援Ａ型事業所や企業には、部会構成員としてではなく、事例を挙げて招集する形が良いか。

決定事項（まとめ）

・職場体験冊子は、指摘があった箇所の修正を行う。 ・３月の全体会で、就労支援部会は「障がい者」を外した方向で就労支援を考えていくことを伝える。
その他、連絡事項等

記録作成者：みよし市社会福祉協議会　中村美香

資料 No.4-1

シエルブルーのピアサポート活動

2022.11.1（火）
グループワーク「仲間同士の支え合い」
　相談したり、助け合ったり、楽しんだり、シエルブルーの中で自然に行われている利用者同士の関りが「ピアサポート」と呼ばれていること。それを仕組み化できないか話し合った。「ピアサポート」に興味を持った人で、後日、ピアサポートについて話し合う「ピアサポート委員会」を作ることとなった。
※ 参加者：利用者３名、スタッフ４名（内ピアスタッフ１名）

2022.11.12（土）
第１回ピアサポート委員会
　居心地のいい「話し合いの場」になるように、話し合いのルールを作り、これからどのように進めていくか話し合った。助け合いや相談し合える仕組み、語り合える場、一緒に楽しめる活動をしていくなどの意見がある中、「自分の体験を語りたい、語ると、どんな気持ちになるか」という興味から、次回は「自分の体験を語ってみる」委員会を行うこととなった。
※ 参加者：利用者２名、スタッフ４名（内ピアスタッフ１名）

2022.12.10（土）
第２回ピアサポート委員会
　３名の利用者が自分の体験を語った。過去のつらかった気持ちやシエルブルーを知って期待していることなどを共有でき、共感すること・されることの温かさを感じる委員会となった。次回も、今回語れなかった人や新たに参加した人に語ってもらう委員会を行うこととなった。
※ 参加者：利用者５名、スタッフ３名（内ピアスタッフ１名）

2023.1.7（土）
第３回ピアサポート委員会
　自分の体験を語る利用者がなく、それぞれの近況を軽く報告し合った。今後やりたいことを話題にすると、楽しめるイベントを開催したいというので、次回はみんなで楽しめるイベントについて話し合うこととなった。また、正式な会の名前を決めること、このグループのロゴも作りたいという意見が出された。
※ 参加者：利用者３名、スタッフ４名（内ピアスタッフ１名）

2023.1.21（土）
第４回ピアサポート委員会
　それぞれの近況報告を行い、会の名前とロゴ、開催するイベントについて話し合った。会の名前は「ブルーシップ」という案、ロゴはイラストが上手な利用者が描いたのもの、イベントについては「いちご狩り」という声が大きかった。次回は、会則とイベントの詳細について話し合うこととなった。
※ 参加者：利用者５名、スタッフ４名（内ピアスタッフ１名）

2023.2.11（土）
第５回ピアサポート委員会
　近況報告を行い、会の名前、ロゴ、会則、イベントについて話し合った。
・会の名前→「blue ship」（ブルーシップ）
　　シエルブルーから外に漕ぎ出して活動していく船の意味。
　　フレンドシップ、リーダーシップなどの ship にも掛けている。
・ロゴ→描かれたイラストを清書した画像にして次回見せる。
・会則→出された意見を書面にしてみて、次回決める。
　　安心して参加できること、参加など自由に決められること、一人一人のメンバーを尊重すること、相手を傷つけないこと、個人情報を守ることなどの意見が挙げられた。
・イベント→いちご狩り 3/19 ストロベリーファームみふね 10 名で仮予約。
・月１回第２土曜日１６時～定例ミーティングを開くことを仮決定。
※ 参加者：利用者３名、スタッフ４名（内ピアスタッフ１名）

資料 No.4-2

令和４年度　精神障がい者等サポート事業　経過報告

１、　シエルブルー利用者状況（令和４年１０月１日～１月３１日）

利用登録者（５２名）内訳①　　１／３１時点

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	5（±0）	8（＋1）	2（＋1）	7（＋2）	6（±0）	0（±0）	28（＋4）
女性	1（±0）	6（＋3）	3（±0）	6（－1）	6（±0）	2（±0）	24（＋2）
合計	6（±0）	14（＋4）	5（＋1）	13（＋1）	12（±0）	2（±0）	52（＋6）

※男女比 54：46　※平均年齢 38.1 歳

利用登録者（５２名）内訳②　　１／３１時点

	精神	発達	知的	診断（無）	合計
日中活動場所（有）	10（＋1）	2（+2）	2（±0）	1（±0）	15（+3）
日中活動場所（無）	22（+2）	7（+1）	3（±0）	5（±0）	37（+3）
合計	32（+3）	9（+3）	5（±0）	6（±0）	52（+6）

※居場所有 29：無 71　※診断有 88：無 12

利用状況（曜日・時間別）　　１０／１～１／３１

稼働日数	火曜日 17	水曜日 17	木曜日 16	金曜日 16	土曜日 17	合計 84（平均）
10～11 時	42	60	42	30	46	220（2.6 人）
11～12 時	67	95	61	45	65	333（4.0 人）
12～13 時	72	94	78	50	81	375（4.5 人）
13～14 時	86	75	89	52	77	379（4.5 人）
14～15 時	95	71	101	58	91	416（5.0 人）
15～16 時	91	75	92	67	82	407（4.8 人）
16～17 時	78	61	86	62	76	363（4.3 人）
曜日人数（平均）	120（7.1 人）	143（8.4 人）	149（9.3 人）	103（6.4 人）	135（7.9 人）	650（7.7 人）

利用頻度　　１／３１時点

週３回以上	５（+1）	４週間に１回	５（+4）
週１～３回	６（-2）	不定期に数回	16（-3）
２週間に１回	５（+2）	１回のみ利用	２（-6）
３週間に１回	５（+4）	利用が途絶えた	８（+6）

紹介者

相談支援専門員	37（+2）	高齢者関係	０（±０）
生活困窮	２（±０）	民生委員	０（±０）
福祉関係事業所	８（+2）	保健所	１（+1）
学校関係	３（±０）	精神科病院	１（+1）

2、　活動内容

利用内訳（延人数）

フリースペースのみ利用	302	登録に至る相談	7
プログラム参加	267	その他の相談	94

プログラム内容

- 学ぶ（グループワーク「仲間同士の支え合い」、スマホカメラ活用術、ミニ講座「自己肯定感」、外部研修「あした天気にな～れ」）
- ゲーム交流（Switch、オセロ、メタバース、ワードウルフ、人生ゲーム、UNO、人狼ゲーム、インサイダーゲーム、コードゲーム、てへ）
- レクリエーション（YouTube カラオケ、室内ゴルフ、射的大会、ミニ卓球、ハイパーホッケー、ロゴクイズ、映画鑑賞会、クリスマスパーティー）　・創作活動（コラージュ）
- 料理会（家族会合同サツマイモクッキング、クレープ、たこ焼き、七草がゆ、サンドイッチ）
- 外出（キンブル、保田ヶ池公園、サンライブ、豊田市科学館、ハイウェイオアシス刈谷、ららぽーと東郷、みよし稲荷初詣、喫茶モーニング）
- コミュニケーション（ミーティング、おしゃべり会、くらし困った会、音楽 Time）

その他の活動

- クリーンタイム（毎週水曜日 13：30（20 分）にみんなで清掃
- 内職（工賃支払い６名　内、在宅ワーク１名）
- オンデマンド送迎（５名）
- フードバンク委員会（月１回）／無料ランチ会（月２回）
- ピアサポート委員会（５回開催）

3、　相談支援

シエルブルー（居場所）登録者の相談　101 件

・アルバイトを継続したい
・一人暮らしの孤独や不安
・人間関係の悩み（家族・友人）
・福祉サービス利用に関する相談
・金銭管理相談（ギャンブル含む）
・障害年金に関する相談
・入院した本人の家族からの相談
・高卒資格についての相談
・就職活動の相談
・居場所利用に関する相談
・日常生活の方法に関する相談
・退院後の地域定着
・ひきこもりから脱したい
・精神障がい理解についての相談
・精神的不調の訴え

上記以外の相談支援　68 件

・子どものひきこもり相談
・仕事の悩み、定着に向けた相談
・福祉サービス利用に関する相談
・子どもの精神症状の不安
・ひきこもり者への訪問面談

4、　居場所の効果

・病状や日常生活の安定
・就労（就学）意欲が出てきた
・楽しみや充実感
・コミュニケーションスキルアップ

5、　その他

・みよし市地域精神障がい者家族会「さつき会」毎月定例会　参加
・ひきこもり経験者・支援者の座談会「エール」３回開催
・みよし市ひきこもり支援連絡会　発足　２回開催（学齢期から・8050）
・みよし市中学４校　訪問
・「学びの森」生徒の見学会　実施
・ピアサポートグループ「ブルーシップ」発足（予定）

6、　課題とまとめ

・精神障がいのある方の居場所として定着者は多い。
・不登校からのひきこもりの人が利用していくための工夫が必要。
・ひきこもり（不登校）の家族が安心して話し合える場がない。
・一人暮らしの不安、親亡き後の不安を抱える人が多い。
・マンツーマン対応の人が増えスタッフが対応に追われる。

７、　今後の取り組み（予定）

・ピアサポートグループ創出の側面的サポート
・メタバース（ネット上の仮想空間による面談のしくみ作り）
・シエルブルーホームページ　開設（３月予定）

資料 No.4-3

令和４年度　第１回　みよし市ひきこもり支援連絡会　会議録

開催日　令和４年 11 月 29 日（火）
時間　　14：00～16：00
場所　　市役所 301 会議室

参加機関（参加者氏名）
衣浦東部保健所（齋藤・岸）、学校教育課（深谷）、学びの森（吉田、奥村）、長寿介護課（七里）、 福祉課（橋本・児島・立石）、くらしはたらく相談センター（小西）、 知立若者サポートステーション（笠置・中村）、シエルブルー（石出・兼重）

議題（協議事項）
１あいさつ　２参加機関紹介　３連絡会の発足について（連絡会要領の確認） ４事例検討「不登校からのひきこもりケース」　５今後の予定（次回日程等）
主な意見
１あいさつ（福祉課橋本氏） ・ようやく開催することができました。日頃よりご協力ありがとうございます。関係者が集まり、つながることで、みよし市らしい支援体制ができることを期待しています。 ２参加機関紹介（自己紹介～ひきこもり支援における役割や関わり） ・まなびの森（ふれあい教室）：不登校児童生徒が登出してきている。登録者は、20 名を少し超えるくらい。日に５名ほどがきている。調理実習があると楽しみに来る。昨年に比べると来る子が減っている。 ・くらしはたらく相談センター：相談支援専門員もおり、ひきこもりの相談も受けている。大人のひきこもりの方が多い。 ・衣浦東部保健所：管内のひきこもり相談を電話やメールなどでも受け付けている。関係機関（特に包括など）からの相談が多い。本人より家族相談が多く、主にどう関われば良いかということを話している。「心の健康相談室」があり、精神科病院の医師が担当しているので、本人の見立てを聞きたくて来られる方もいる。10 月にひきこもり支援ネットワーク会議（みよし市対象）を開催した。 ・知立若者サポートステーション：厚生労働省の委託を受け、15 歳～49 歳の就労をサポートしている。一昨年前からひきこもり支援もできるようになったので、アウトリーチが必要であれば行う。法人では、宿泊型自立訓練事業「若者の家」を運営しており、ひきこもりの人を受け入れている。 ・学校教育課：学校やふれあい教室にもいけない生徒や民間フリースクールへ行っている子など色んな生徒への支援を進めている。 ・福祉課（福祉総合相談センター）：直接的なひきこもりの相談は、ほとんどない。高齢相談や困窮の相談からひきこもりの話が出てきている。シエルブルーや相談員へ業務を委託している。 ・長寿介護課（福祉総合相談センター）：主に高齢、基幹的な相談を受けている。ひきこもっている学生に、困っている体で畑の芋堀りや草抜きをお願いして自信をつけさせたという情報が先月入ってきた。 ・シエルブルー：居場所常設の相談機関。対象は精神疾患を持つ方とひきこもりの方。50 名の登録があり、日に７名ほどの利用がある。常時居場所を利用している人は精神疾患を抱えている人が多い。 ３連絡会の発足について ・連絡会の要領案を参加機関で確認し、みよし市ひきこもり支援連絡会の発足する。 ４事例検討 （１）「不登校からひきこもりになったケース」概要説明と質疑応答（小西氏） （２）グループワーク

- 中学校不登校から何とか定時制や通信制の高校に繋がる子もいる。その後、何カ月か後に退学している人も多い。
- 先生が動いても繋げないケースや卒業後先生が関われなくなっているケースもある。
- 中学を不登校で卒業していくと気持ちよくないと思うがどうしているか？→気持ちよくないが、きちんと登校してきている子たちを優先してしまっていて、手をこまねているというのが現状。卒業後のために市の相談窓口や心理カウンセラーがいるまなびの森を紹介するが、卒業時にはうまく行かないことを想定しないため、相談場所のことは忘れさられている状況。高校や家庭と連絡をとることはあるが、保護者や本人に担任すら会えていないから繋がれない。
- 若者サポートステーションでは、中学から不登校で卒業しそうな人は、担任から連絡が入ってくる。定時制や通信制高校に通っている人は、中退しそうだと連絡がくるようになっている。
- その仕組みはなぜできているのか？→先生方が若サポの機能をあまり理解しておらず、障がいがなくて、居場所がない人は若者サポートステーションへ行けば良いという認識になっているのかもしれない。若者サポートステーションの機能ではないところで、最終サポステになっている現状。何かあれば、若サポではなく、各支援機関が機能できると良い。
- 保健所は親や包括からの相談が多い（卒業して年数が経ってから 2,30 代での相談）。
- 福祉総合相談センターには、ひきこもりの相談はほとんどダイレクトに来ない。
- 今年からシエルブルーができ、繋げる先が出来て良い。何人か繋げさせてもらった。
- シエルブルーに繋いでいただいて、登録はしたものの利用継続できていないのが現状。
- まなびの森も同様。繋いで OK ではないということ。登録はしており、学校に戻れる子もいるが、戻れない子もいる。
- シエルブルーの定着率が低いのはなぜか？→居場所があるのは良いが、そこから先がどうなっていくのかがぼやっとしていてイメージがないから、というのもある。
- 本人に魅力を感じてもらって定着率をあげるのにとても有効的なことは「仲間に褒められる」こと、もう一度行きたいと思う。30 秒みんなで褒め合おうという実践から知った事。一般的な感覚だと上司や支援者から褒められた方が嬉しいと考えるが、同じ傷ついた者同士から褒められた方が嬉しいというのが実際。
- シエルブルーでもプログラムを作って実践してみたいと思う。
- スクォーラ（子どもの学習・生活相談）は対象が小～高となっているが、現在中学生までしかいない。理由は、勉強を教えられるスタッフがいないため。中学を卒業した子をどうするかと思っている。
- 知立若者サポートステーションかシエルブルーかどちらを紹介すれば良いか迷うことがある。本格的にお仕事を→知立若者サポートステーション。同じような仲間→シエルブルー。まなびの森や学校教育課に知立若者サポートステーションがどういうところか話に行く機会があると良い。
- 家から出て何かすることをゴールとしてしまうと、うまく行かないことが多い。
- 家計状態が良いと私立高校などの進路が決まりやすい。
- 親がどこまで動くかによって不登校の状況が変わる。
- まだ若く、つながるサービスが多い中で相談につながったことは良かった。高校中退して 10 年以上経って親の行く先が見えてから相談につながる方が多い。
- 家族に力（パワー）がないと相談に行かない、行けない。
- 今回のケースは、個→個で相談につながったことは良かった。それを学校→相談機関としていくとなお良い。
- 入り口が明確だとつなぐ方もしやすい。ワンストップで相談を聞ける窓口が他市町にあるか？
- 学びの森に心理士２名いて、学びの森を利用し卒業後、高校中退して心理士に相談す

る人は多い。しかし、学びの森に卒業後の情報はない。
・学校の先生も本人の気持ちをつかめていないことがある。
・つなげられる先は増えてきたが、そこに行けるか、継続できるかが今は課題。なぜ難しいか、何があれば良いのか。
・ひきこもりの人の中には、つながりシートを記入していた子もいる？その子の情報はキャッチすることはできていた。
・介入することがいいかどうかはケースによる、それに対する理解がいる。
・本人の思い、家族の思い、支援者の思いがバラバラ。３者同じ方向に向くのは長期戦。
・このケースは支援者の関りには前向き。その人のペースがある。つながっていること、会っておくことが大事。（学びの森：調理実習には参加。シエルブルー：初回から半年後に現れる）
・事前に学びの森を知ることで、その後、利用しやすくなった。学びの森の利用者など、中学卒業後半年後にモニタリングの連絡を入れる同意を得ておくことはできないか。学びの森の利用中にシエルブルーを見学しておくのはどうか。
・本音で話し合う場所、思いを吐き出せる場所、親同士が集まる場所があると良い。
・見学は行くが利用は×。買い物は行けるのに？なぜ行けない？行きたくない？先のイメージが持てない？→何かのきっかけがあると良い。地域の協力してくれる農業のケースなど、居場所に行けないがやれることはある。それが自己肯定感を上げることにつながった。
・成功事例に限らず、失敗事例などももっと多く知りたい。

（３）全体共有（感想）
・各機関が機能し、誰がいて、何をやってくれるのかということが分かっていると良い。
・みよし市のひきこもり支援のプラットフォーム、フローが明示できるものがあると良い。
・学校と福祉、双方で理解していくというのが大事。どこまでできるか。理想の押し付けではないかなど。
・支援マップを作っても市民に届いていない周知不足。確実に届くアプローチが今後必要になるかと。
・学校現場に周知することで早い一手が打てるというのが大事だと思う。
・各機関がケースを担当している。みよし市のフォーマル、インフォーマルなものも含め、個々の繋がりがシステム的に、網羅的に繋がっていけると良いと思う。支援者たちがまずどういったところにあって、何をしてもらえるのかが分かると良い。
・資源を見える化するのは良いのでは。
・若い人の状況が知れて良かった。ひきこもりは奥が深く何が支援なのかわからない。ひきこもり支援ってこういう事かなというのが統一できると良い。
・支援者より、同じ立場の者同士で評価しあうこと。何とかしてあげないとというのは本人には届かないなと思っている。当事者で話し合える場があると良い。

決定事項（まとめ）

５今後の予定
・今年度中に若い人の連絡会２回目、中高年の人１回目を行う。日程調整する。
・若い人の連絡会２回目内容は、支援マップのたたき台をもとに、それを見ながら社会資源の整理（確認）を行う。
・今日の出た話の課題も整理しておく。

その他、連絡事項等

特になし

記録作成者：シエルブルー　石出、兼重

資料 No.4-4

令和４年度　第２回　みよし市ひきこもり支援連絡会　会議録

開催日　令和５年２月９日（木）
時間　　１０：00～正午
場所　　市役所３階研修室４，５

参加機関（参加者氏名）
長寿介護課（近藤、七里）、きたよし包括支援センター（石田）、なかよし包括支援センター（棚沢）、おかよし包括支援センター（小島）、みなよし包括支援センター（近藤）、学校教育課（深谷）、福祉課（橋本、児島、立石）、くらしはたらく相談センター（小西、新原）、知立若者サポートステーション（笠置、中村）、シエルブルー（加藤、兼重）

議題（協議事項）
１あいさつ　２参加機関紹介　３ひきこもり支援連絡会について（第１回ひきこもり支援連絡会の報告）　４グループワーク「８０５０問題」　５全体共有　６今後の予定
主な意見
１あいさつ（福祉課橋本氏） ２参加機関紹介（自己紹介～ひきこもり者との関わり等） ３ひきこもり支援連絡会について（発足の経緯、要領確認、第１回の報告） ４グループワーク「８０５０問題」包括支援センターのケースを基に意見交換 ・息子が入院した際、高齢の母と２人暮らしで、働かず、ひきこもり状態であることがわかったケースがあった。 ・母親が認知症。息子はひきこもり状態。娘は統合失調症を発症していて一人で行動が出来ない。病を抱える父親から SOS が包括に入る。家はごみ屋敷状態。一家の収入源は父親の年金。父が倒れると一家は成り立たなくなってしまうケースがあった。 ・両親と息子で暮らす家庭。母親が大腿骨を骨折し歩けなくなったと父親から包括に連絡が入る。息子は対人緊張が強くひきこもり状態のケースがあった。 ・「～に相談してみては」と提案しても、本人や家族が望まないとうまくつながらない。 ・本人からの訴えがなければ機関につなぐこともできない。 ・包括から居宅介護支援事業所につないだ後は、ケアマネから連絡が入ることがなく、その後の状況がわからなくなることも多い。 ・ひきこもりのケースが発見されるのは、高齢の親が「亡くなる」、「入院する」、「虐待される」ときが多い。 ・子どもが部屋を占拠、両親は家に住めなくなり、車中泊しているというケースもある。すぐ近くに部屋を用意しても、両親は子どもを心配し、車中泊をやめず。食事をドアノブにかけたりしながら常に家の近くで待機している。このケースをどこにつなぐのか。 ・働きたい、お金がないといった要望がなければ専門の機関につなげることができない。問題が明確化すれば動けるのだが。 ・親が、子どもがひきこもっていることをひた隠しにする場合もある。 ・サポステ＝ひきこもりのイメージがあるせいか、支援の依頼は入ってくる。しかし、15～49 歳までという対象年齢があり、雇用に関わらないケースは携れなかった。今後は、依頼があれば受けていこうと思っている。 ・親が介護につながった場合、環境に入り込めるヘルパーがひきこもりの本人と関われるチャンスが大きい。その際、介護保険の機関だけでなく、他の機関とつながり、連携できないだろうか。ヘルパーに同行し、支援を補足してもらえる支援体制があれば良いと思う。 ・高齢の親に介護が必要になっても支援に入るまでが困難である。 ・60 代で病院には行っているがずっと家に居る。配食サービスの人には毎日会っている。

スーパーで万引きしてしまうと娘から連絡があった。会ってはくれるが外出はしないケースがあった。
・本人にとっても、支援にしても、どこをゴールに考えるかが大切ではないか。外出できることも大切だが、孤立感をなくすことが大切だと思う。
・年齢的に高齢なのでどこが支援を担当するか、包括なのか、よくわからない。
・80 代後半認知症の母と 50 代統合失調症の子どもで暮らしている。受診やデイサービスは利用できているが、子どもに母の介護は難しいケースがあった。
・父 70 代、息子は 40 代で仕事せず家に居る。急にキレるので父は刺激しないようにして、母は小遣いを渡している。3 年前くらいにくらしはたらく相談センターに相談したが、本人が来てくれたら相談にのれると言われ情報提供に終わったケースがあった。
・背景を知るために支援者（相談員）が一緒に行けば良い。本人に会えなくても親からの情報で良い。
・なぜ会ってくれないのか？本人はあきらめている？ひきこもりになった時、最初からあきらめている人はいなかったはず。藁をもつかむ思いで連絡してきたら、本人のテリトリーを侵さないようにする対応が必要。
・サポステでうまくいったケースは、何かを支援しようと思っていないアプローチ。何を求めているのか知らなければいけない。仕事というワードは一度も出していないが本人からつながってきてくれた。本人の力を信じて待った。
・安心してこの人ならと思ってもらう。相性が合わなければ支援者も変えれるからねと伝えリスク回避も考える。
・家族からの話で行くと、引き出そうという思いが伝わりうまく行かないことが多い。
・意思決定支援を大切に考える。1 番大切なのは信頼関係。そして情報共有、タイミング。
・会えないことは課題ではない。支援者には課題かもしれないが本人は違う。支援者の質の向上が必要。支援者という言葉もいらない。
・家族の理解があって、タイミングよく支援者とつながってうまくいったケースがあった。
最初は全く出れなかったが、ようやく外出できるようになった時にタイミング良く支援につながった。1 年かけて働き始めた。本人は家事をやった時に親に感謝されていたことが元気を回復させたと話してくれた。家族も学んだ。家族の理解も必要。
・ひきこもりの子どもの支援は直接包括が対応することではないが、いずれは高齢者になるから、親も安心するからと思って対応している。
・事例の共有→分析→フィードバック、これが深まると役割分担もできる。
・連携したあとも、どうなったか聞くことでまた動き出すこともあるので連絡は大切。
５全体共有（感想等）
・具体的な話にはならなかったがいろいろ参考になった。
・情報共有の大切さを知った。
・本人につながる、その家庭に入っていく難しさを感じた。
・包括は高齢の家庭に用事がなくても行ける。障がいも支援を受ける人の家庭に行ける。ひきこもりは何かしてほしい訳ではないので行けない。何か困ったら行ける。そのタイミングをどうつかむか、定期的に行ける人の存在が必要だと思った。
・行政は困った時に初めてひきこもりを把握できる。縦割りながら投げて、やれたりやれなかったこともあるので、相談支援体制を見直す必要がある。補足する機能も何か必要だと思う。重層的支援体制整備に向けてどういう機能が必要か勉強したい。
・サポステももっと早く連携をしていけば良かったと感じている。
・あきらめてひきこもる理由、その背景をどこまで共有できるか、事例の共有を積み重ねる必要がある。縦割りを崩すには共有の部分をどうするか考えなければいけない。
・包括もこれができたらどれだけ心強いか、これが本音である。

・縦割りの枠にとらわれていた部分もある。これからはもう少し気軽に相談したい。 ・支援者一人の力も大事だが、誰に相談しても安心できる仕組み作りが大切。 ・ひきこもりの対応は難しく無力感を感じるし、相手に伝わっているように思う。個人のスキルだけではなく、包括やヘルパーと動けるシステムができるとよい。
決定事項（まとめ）
６今後の予定 ・3/9（木）10 時～正午 ひきこもり支援連絡会（不登校からのひきこもり２回目）を行う。 ・若いひきこもりの将来が８０５０であり一連の流れがある。3/9 ひきこもり支援連絡会は、ひきこもりの社会資源を確認していく意見交換なので、都合がつけば包括の方も参加をお願いしたい。 ・今後も年に数回、ひきこもり支援連絡会を開催していく。
その他、連絡事項等
特になし

記録作成者：シエルブルー　加藤、兼重

資料 No.4-5

令和３年度　精神保健福祉部会ＷＧ　課題の整理表

2022/2/24

	受診前・受診時	入院中	退院時	退院後および地域生活
広域の課題 精神科病院が把握している	●外国の方で言葉が通じないために受診ができない方がいる。通訳だけの問題でもなく、本人の詳しい様子がわからないなど精神疾患であるが故の難しさがある。 **⇒通訳など外国の方の支援体制の検討** **（課題検討→次年度以降）**	●独り身での入退院や医療的処置の場面で、家族の同意が得られず困るケースがある。 **⇒キーパーソンを作るための検討** **（課題検討→次年度以降）**	●家族が同意せず退院できないケースがある。 **⇒退院後の生活を支えてくれる（キーパーソン）を作るための検討（課題検討→次年度以降）** ●病院では落ち着いていても、退院すると家族との折り合いが悪く入退院を繰り返したり、家族や地域の理解がないことで退院できない課題がある。 **⇒普及啓発の仕組み検討（家族・地域）** **（課題検討→次年度以降）** ●グループホームから入院したケースで、退院する際に同グループホームから利用を拒否され退院先に困ることがある。また、グループホームの利用が始まっても対応の難しい方はその後利用できなくなるケースがある。 **⇒普及啓発の仕組み検討（支援者・事業所）** **（課題検討→次年度以降）**	●症状が治まって退院しても家族に病気の理解がなく、治っていないとクレームをつける人もいる。家族の受け入れ・正しい理解をしてもらうことに苦慮している。家族が学べる機会も少ない。 **⇒家族が学べる機会の創出** **（課題検討→次年度以降）**
地域課題 相談支援専門員が把握している	●精神症状があるが自覚のない方、産後うつが疑われる方など、受診が必要に思われる方がいても本人の同意が得られず受診してもらえない。 **⇒相談支援のスキルアップ** **（課題検討→次年度以降）** ●悪化して初めて発見されるアルコール依存症の方や、依存症（アルコール・ギャンブル）だと周りが気づいているにも関わらず治療や支援につなげられない方がいる。 **⇒依存症の普及啓発、支援体制の検討。** **（課題検討→次年度以降）**	●独り身の入退院や財産の手続きの件で家族の同意が得られず困るケースがある。 **⇒キーパーソンを作るための検討** **（課題検討→次年度以降）**	●本人が退院したくても家族では世話が難しく退院できない、または家族が同居を拒否しており退院先がない。本人の退院の意向が実現できないケースが複数例ある。 **⇒家族が安心できる支援体制、本人の意向が叶えられる居住支援などの検討** **（課題検討→次年度以降）** ●精神障がい者に適した居住の形（アパートのようなグループホーム等）が住み慣れた近くの地域にない。 **⇒サテライト型グループホーム等の検討** **（暮らしの場検討チームと検討）** ●精神疾患があることを家主が知ると、理解が得られず、アパートが決まらないケースが多い。 **⇒普及啓発（不動産）の仕組み検討** **（暮らしの場検討チームと検討）** ●入退院を繰り返している人の中に地域の相談に繋がっていなかった人がいた。また、退院支援時に病院スタッフと動けると相談支援専門員も安心して動ける状況がある。 **⇒退院時に地域の相談とつながる仕組みの検討。** **（課題検討→次年度以降）**	●精神障がいを抱える方の孤立。居場所支援があっても不安が強く行けない、本人が支援を求めないなどでひきこもりの状態にある人が複数例ある。 **⇒シエルブルーで対応できることを部会でも検討していく。（課題検討→次年度）** ●働きたい気持ちがあるが不安も強く就労支援に至らないケースが多い。 **⇒シエルブルーで対応できることを部会でも検討していく。（課題検討→次年度）** ●交通手段がなく通院や福祉サービスなどの利用ができない。 **⇒交通網整備の提案、送迎の仕組みなどを検討** **（課題検討→次年度以降）** ●家賃の安い一人暮らしできる住居に引っ越したいが、みよし市にない。 **⇒公営住宅等への優先入居の提案。** **（暮らしの場検討チームと検討）** ●高齢の親が親亡き後の心配をしているケース、親の介護が負担になるケースが多い。 **⇒高齢分野との連携、グループホーム、成年後見制度などの検討（課題検討→次年度以降）** ●精神障がい者の対応の難しさで家族や支援者が振り回されてしまう。 **⇒家族のレスパイト、支援者のスキルアップ** **（課題検討→次年度以降）** ●精神障がい者の対応に苦手意識がある（介護、福祉、企業）。 **⇒支援者が学べる機会の創出、普及啓発の仕組み検討（課題検討→次年度以降）**

資料 No.4-6

令和４（２０２２）年度２月精神保健福祉部会会議　会議録

開催日時：令和５年２月２２日（水）

作成者氏名：　小西　浩文

参加機関（参加者氏名）
相談支援地域アドバイザー阪田氏、衣浦東部保健所齋藤氏、衣ヶ原病院二村氏、豊田西病院鷲津氏、南豊田病院深谷氏・渡邉氏、和合病院氏益氏、さつき会畠中氏、ふれあいサービス横山氏、健康推進課田之上氏、福祉課児島氏・立石氏、シエルブルー兼重氏、はたらくサポートセンター小西
議題（協議事項）
① ピアサポートの仕組み作りについて ② みよし市の精神保健福祉の課題について ③ みよし市ひきこもり支援連絡会について ④ 令和４年度精神保健福祉部会事業報告書
主な意見
① ピアサポートの仕組み作りについて 兼重氏 ・シエルブルーで「ピアサポート委員会」を開催、自身の体験を語る会などを始めている。第４回以降自分の体験を語る人がいなくなってしまったが、楽しいことをしたいという意見が出て、いちごがりのイベントを行うことにした。委員会の名前を「ブルーシップ」と名付け、ロゴも利用者が作っている。この活動を続けていくことで、いずれピアサポートグループが生まれてくるのではないか。今は、利用者だけではうまく動かしていけないのでスッタフが入り調整している。いずれ外部の人の参加も考えていきたい。 ・ピアサポーターについて（次年度の取り組み） 来年度ピアサポーターの養成を考えていきたい。みよしでどのようにピアサポーターを増やしていくかを次年度検討していきたい。 阪田氏 今年度の取組みを通して、ピアサポートとピアサポーターの違いを捉えることができた。他市で、ピアサポート研修をやったが資格が取れるとか勘違いされる場合があった。養成について何をするかを話していかないといけないと思う。 兼重氏 ピアサポーターは誰でもなれるという感じではない。自分の体験を伝えることができるスキルがないと難しい。多くの人と出会って、その素質のある人たちを見つけていきたい。 畠中氏 シエルブルーに通っている人の中から選抜していってはどうか。徐々に力をつけていって育てていくほうがよいのではないか。 兼重氏 現状参加している方が 5 名くらいいるが、ピアサポーターになりたい人もいる一方、そうでない人もいる。「ブルーシップ」にも興味を持たれている人がいる。ピアサポーターに興味がある人もいる。魅力的に感じられているみたいなので、もっと発信していかないといけないと思う。 深谷氏 ピアサポート研修の時、障がい者と健常者がいっしょに受けられている様子。研修参加枠が、狭くなり受けたい人が受けれない状態があるようだ。愛知県では愛知県精神保健福祉士協会が委託を受けて研修を行っている。

兼重氏
今年度はピアサポートについて理解を深める年だった。来年度は就労移行、就労 A とかを誘って、ワーキングを作って取り組みたいと考えている。病院の地活、当事者の参加も考えていきたい。

鷲津氏
ピアの必要性について、利用者同士の会話で気づきあっている現場を見た。自分の事をうまく表現できない人たちが多いので、利用者が自分の想いを出しやすくなるよう支援することが、育てていくことにつながると思う。スタッフの関わりがあってピアサポートに繋がっていくと思う。仕組みづくりだけにこだわるのではなく、個人の特性を引き出してあげれることができるとよい。

阪田氏
現場の実践の場で感じ取ることが大事であり、その中で新たな課題も見つかってくるであろう。課題の背景を共有していく必要があるのではないか。シエルブルーを利用して共有をしていく必要がある。事例を取り組みながら考えていくことが大事だと思う。

畠中氏
就労 A 型にいっている人達は、お金がつくとよいのではないか。

二村氏
ピアサポーターをやることを考えると大変そうに感じる。ブルーシップはピアサポーターになりたい人を支えることが出来る場であると知ってもらいたい。

兼重氏
ブルーシップの存在を広げていきたいと思う。ブルーシップは月 1 回第 2 土曜日にやっていく予定。ピアサポーターについては、いずれは当事者のはたらく場を創出していくこともできていくのではないか。

氏益氏
支える人を支援者が支えていくというイメージでよいのではないか。

② みよし市の精神保健福祉の課題について
兼重氏
精神障がい者等サポート事業の経過報告を行う。相談を希望する人が多くなってきている。
フードバンク委員会を目当てに参加される人が増加してきた。
効果として、
・病状が安定しなかった人が安定している。
・意欲がなかった人が学校や働くことを考えれるようになってきている。
・学びの森との連携で、中学校の訪問など不登校の現状に触れることができた。学びの森から中学生の見学者も受け入れ、アンケートを見ると、卒業後に利用できそうなところがあって安心したという声をいただいた。
・部会では、精神障がいのある人の居場所が必要と検討を重ねてきた。シエルブルーができ、精神障がいのある人の居場所としては定着してきていると感じている。以前の事業所の平均利用者数よりもすでに多い。

課題
・疾患や障がいのない、ひきこもりの人達（若い世代）の利用は少ない。
・ひとり暮らしの方の生活不安をよく聞くようになってきた。

・ひきこもり家族からの相談で、同じような経験をした家族の話を聴きたいという声を聞くようになった。

児島氏
不登校からのひきこもり支援に頑張ってもらっている。学びの森との連携がより深いものになってきた。継続してやっていってほしい。

保健センター
シエルブルーの利用者の数が多いと感じた。充実しているのではないか。
増加のきっかけとしては、相談員が抱えていてどこにも繋げられない人がたくさんいたことと、保健所・病院・学校教育課・くらし・はたらく相談センターから繋がれてきている。

横山氏
地活の利用者が増えない理由かもしれない。シエルブルーとの連携は今のところない。

③ みよし市ひきこもり支援連絡会について
第１回（不登校からのひきこもり）
ケース検討を中心に行う。関係機関と情報共有を行った。連絡会の後、シエルブルーが学びの森と共に市内 4 中学校を訪問し、不登校の現状を実名で聴くことができた。丘中校区委員会にも出向くことができ、民生児童委員に精神障がい者等サポート事業を伝えた。中学校の現状を把握したが、不登校が過去最大に多く危機感を感じている。

第２回（8050 問題）
市内 4 包括支援センターに参加していただき、抱えているケースの情報交換を行った。気軽に相談できる体制づくりが行えるようになってきた。

第３回
ひきこもりに関係してる社会資源を整理していく予定。
３月９日　市役所研修室４，５　10 時から正午　開催予定。

④ 令和４年度精神保健福祉部会事業報告書
来年度　課題が集まる形をつくっていきたい。
福祉課
「にも包括」が障がい者福祉計画にうたわれているが、どのように取り組んで行くのが良いか。

阪田氏
事例検討を行っていくべきである。昨年度課題出しを行っていた。そのままになってしまっている。事例検討が上手くできていなかった。どのように事例検討していくかが課題か。検討の前に課題整理が弱いのではないかと思う。見える化していくことが必要。全体会までに整理して提出し、次年度検討に入っていく。

鷲津氏
病院チーム・福祉チームになりがち。問題の集約のされ方がいびつであると思える。アセスメントの力、解決するための力をきたえることが必要。共通認識を持った方がよいのではないか。

阪田氏
ソーシャルチェンジが必要。価値観を変えることが必然だ。仕組みを変えていかないといけない。危機感を持ってやっていかないといけない。問題を共有すればどんどん目的目標が明

確になってくる。目的の解決に向ける事例検討を行っていけばよい。 二村氏 みよし市の課題がみえてこない。当事者の参加、相談員も参加した方がよいのではないか。
決定事項（まとめ）
① みよしでどのようにピアサポーターを増やしていくかを次年度検討していく。 ② シエルブルーができ、利用者の生活が安定してきている。しかし若者の利用があまりされておらず課題である。シエルブルーで把握できる課題以外も共有し検討できるようにしていく。 ③ 報告のみ。引き続き、ひきこもり支援連絡会を継続していく。 ④ みよし市の精神保健福祉の課題をもう一度検討していく。
残された課題と今後の検討事項
① ピアサポーター養成のため仕組みづくりが課題。 ② 若者の利用者を増加させていく為の仕組みづくり。 ③ 来年度も引き続き相談機関のフローを整理していく。 ④ 事例検討の方法等の検討が必要。

資料 No.5-1

医療的ケアさぽーと部会

第３回　周知啓発 WG　報告書

開催日時：令和４（2022）年１１月１４日（月）１３：３０（ZOOM 開催）

記録者：キッズラバルカ　川北小有里

参加機関
子育て支援課：本松先生　いきもの語り：水井氏　キッズラバルカ：川北
検討内容
周知啓発 WG は部会で行った事例検討を基に、災害時支援を中心に自治区を巻き込んだシミュレーションを二か年で行う予定であったが、対象者他界のため、今後の動きについて検討する。
内容（意見含める）
本松先生 家のことを知っていくところからスタートした。支援者になりえる人や区のことなども知る機会となった。当事者を含めた内容で 1 年延ばしてもいいのではないか。 水井氏 考えるきっかけとなり、協力してくれる人の目途もついてきた。対象者の方を基に次につなげるように考えてきたため、当事者を含めた形で実施をしたい。 川北 できれば対象者を含めて考えていきたい。ご協力いただける人に心当たりがあるか？ 水井氏 できれば、避難する際にデバイス等荷物の多い人の方がイメージがつきやすい。 本松先生 ご両親揃って対応できるところよりは、困った時に 1 人では身動き取れない、すぐにヘルプできる体制にない方の方がいいのではないか。また、次につなげるためにもそういったことにご協力いただける保護者がよい。 川北 １名若松さん（未満児）が気管切開と胃ろう、呼吸器も使用しているため保健センターに確認し、ご協力の有無を確認していただく。確認後、訪問させていただきWGメンバーが知るとことから始める。2 月には、次年度の動きの確認を行い暑くなる前にシミュレーションを行い、評価する。
決定事項
・周知啓発WGは１年延ばし、当事者含めたシミュレーションを実施。 ・対象者を若松さんに依頼する。保健センターから確認してもらう。確認後、川北から趣旨説明をさせていただき、１２～１月にWGで訪問する。２月には次年度の動きの確認を行う。５月上旬にはシミュレーションが行えるように進める。
次回の日程・その他
ご協力いただけるのであれば、１２月中に趣旨説明に伺う。難しければ他の方を選定する。

資料 No.5-2

令和４（２０２２）年度医療的ケアさぽーと部会　情報ガイド報告書

開催日時：令和４年１１月１７日（木）
作成者氏名：キッズラバルカ：川北小有里

参加機関（参加者氏名）
藤田医科大学病院：地域連携室　渡邊氏・青木氏 あいち小児保健医療総合センター：保健室　加藤氏 八事日赤病院：地域連携室　森田氏 トヨタ記念病院：医療社会福祉グループ　浅野氏・村松氏 あいち医療的ケア児支援センター：三浦先生・川井氏・徳田氏
議題（協議事項）
豊田みよしの医療的ケアのある方の情報ガイドについて、周知に伺う。
主な意見
【藤田医科大学病院】 以前退院前カンファレンスでその情報をいただいたため、お母様に情報提供した。窓口が分かることが大事。シンプルでわかりやすい。医療的ケア児等コーディネーターがいると安心する。 【あいち小児保健医療総合センター】 各市町、医療的ケア児等コーディネーターがいると県に報告していても実際動いていないため、退院時に情報提供をどこにすればいいのか分からないことも多いのでみよし市はしっかりできていて助かる。 【八事日赤病院】 先日も退院前カンファがあった。その時にも医療的ケア児等コーディネーターが来てくれていたため安心。地域に帰る時、どうしたらいいか不安だと思うので、カンファレンスの参加は医療機関も安心する。 【トヨタ記念病院】 HP に乗っているのをコピーするのでいいか。対象者を絞ったことで、以前よりシンプルでわかりやすい。 【あいち医療的ケア児支援センター】 豊田市みよし市はある程度体制が整っているので、よい。医療的ケア児等コーディネーターの役割もみよし市はしっかりあり、行政の横のつながりもできているようだが、他市町はそこが課題。何をもってできるようになったのか知りたい。県としてアドバイザーの活用とセンターの役割分担もまだできていないため、今後の課題として検討していく。
残された課題と今後の検討事項
今回、HP からコピーをして各医療機関にお渡ししたがリーフレットがあるとよかった。豊田市とみよし市で予算をどうするか検討が必要。 次年度修正なし。毎年４月に HP に最新版としてアップする。

資料 No.5-3

医療的ケアさぽーと部会

第３回　医療的ケア児等コーディネーターWG　報告書

開催日時：令和４（2022）年１１月７日（月）１０時

記録者：キッズラバルカ　川北小有里

参加機関
しずく訪問看護ステーション：澤野氏・OK サポート：戸村氏 キッズラバルカ：川北・保健センター：早田氏・子育て支援課：関根氏
報告事項
西三河北部・西三河南部東圏域医療的ケア児支援連携会議について（関根氏）
協議事項
１：専門職としての動き、コーディネーターとしての動きについて（早田氏） ２：市内に居住する医療的ケア児の情報共有及び課題について
内容（意見含める）
【報告事項】別紙参照 ・活動状況の報告 ・支援センターとして、岡崎市と豊田市の協議会に参加している ・情報交換事前アンケートについて、資料３参照。課題は同じような課題があったかと思う。保育教育福祉の連携の課題もあがっていた。 ・情報交換について、資料４参照。仕組みの話題（委託料等）なり、コーディネーターの動きやつながりについて知りたい等。③は行政からの質問と④は三河青い鳥からの質問があった。連携体制や人員配置、仕組み的な質問が多かったと思う。 質疑と感想 ・岡崎市の 0.4 人区分がなぜなのか？→わからないため、根拠を確認（川北） ・**みよしは福祉課が参加していなかったが、参加するべきだった**。現在、学校教育課の運営会議についても、だれが出るのかも不明。 【協議事項】 １：専門職としての動き、コーディネーターとしての動きについて（早田氏） コーディネーターとして動くにあたり、保健師との違いについて悩みある。保健センターは、保健師は地区担当制。お母さんたちに、保健師なのかコーディネーターなのか、お母さんもどちらに連絡すればいいのかわかりにくいのではないか。また、今はみよし市内に居住だが、以前市内に住所があり市外で住んでいた子の時に、どう対応したらいいか分からなかった。訪問看護との距離感が近すぎて、母はその人の言うことをすべてうのみにしてしまう。その時の立ち位置が分からなくなる。 （澤野氏） 訪問看護だと、家族含めみた時に制度のところが弱い。全体をみた時には助かる。あとは市として把握しておいてほしい。何があった時には介入しやすいようにしてほしい。地区担にしてみたら、何かあれば早田さんに相談しやすいのではないか。メインで動くよりは、動いている人をサポートするのでいいのではないか。 （その他、意見） ・ケースだとみよしだと多くない。子育て支援課に関根氏がいることで、相談できる人がいることで安心しているのではないか。 ・大事なのは、共有。何かあった時に動けるように常日頃の情報の共有が必要。 ・地区担の中でも経験値の差がある。情報の伝え方が異なるので、こちらから聞く、どういった情報が欲しいのか伝えていく、どういった視点でみるのか等・・・ ・１人では難しければ、他のコーディネーターを頼る。 ２：市内に居住する医療的ケア児の情報共有及び課題について （関根氏） ・A（経管栄養） R5年４月入園の申し込みあり。第１希望が黒笹幼稚園（看護師配置あり）。関根氏と訪問看護との連携もあり。１日５回経管栄養。４月から母が仕事復帰（９～１５時：週３

日）で、1 回保育園でお願いしたいと希望。ただし、いずれ経口でという話しもあったが、今すぐはまだ難しい。黒笹保育園の看護師が週３勤務で、曜日も決まっているため合わせていかないといけない。ただし、黒笹保育園が人気の園のため、母の就労の条件だと黒笹保育園だと難しい(現在未満児)。黒笹保育園がよいため、他の園の希望はないため、結果、母の就労は延期となった。
（戸村氏）
・B（導尿）　変わりなし
（澤野氏）
・C（インスリン）
手技の獲得できているが、流れでしているため一旦立ち止まって確認することが必要。訪問看護は今年度で終了。
・D（気切）
職場体験はサンライブ。来年度の夏休みには顎の手術の予定だが、すぐにカニューレが外れないと思う。現在、川北とコミュニケーションカアップの面談をしている。
・E（酸素）
随分成長して、修学旅行にいくことができた。（自分でスケジュールも立てることができた）不登校ではなく、遅刻しつつもいくことができている。運動会も酸素しょって参加もできた。
・F、G（胃ろう・吸引）
コロニーのレスパイトも始まったが、今後のことを考え、にじいろの見学も行く予定。入浴もヘルパーを入れる予定にしている。祖父の認知機能の低下が気になる。
・H（ストマ）
肝機能障害が悪くなり、原因はわからないがなんとか退院。10 月後半、学校に１日いることができず体力低下。半日でも数えるほどしか行けない。本人は学校には行きたいが体力が続かない。例えば給食だけ食べに行くのはどうか提案したが、母が送迎（就労中）しないといけないことを気にしている。学校教育課に相談し、ファミサポの利用を提案された。ストマの状態は問題ない。学校での便だしの手技は獲得できている。それができれば、ガス抜きと便だしの手技で週１くらいの対応になる。また背髄に腫瘍があり、歩きに支障が出てきている。
・I（経管栄養・ネーザル）
藤田医科大学病院から、１２日に退院予定。遺伝子検査をやるメリットを病院から説明をされたが受ける予定。
（川北）
・J（胃ろう）
11 月３日に他界。
・K（ストマ）
ひかりの丘みよしが今年度で閉所のため、今後いきものに依頼。母、精神疾患あり。来年度末に一宮市に引越の予定。
（早田氏）
・L（酸素と鼻タイプ呼吸器）
中村日赤にて低体重児で出産。その後八事日赤に転院で 11 月４日退院カンファ。現在 4500ｇまで増えている。呼吸器は 1 年で外れると思うと言われている。母の実家が打越で 1 年程はそこで過ごす予定。協力もあり、通院も祖母や曾祖母で関われる。地域医療センターと mom が介入する。
・M（呼吸器・気管切開・胃ろう）
本児は変わりなく。父がうつ（？）で休職中。東名古屋のレスパイトも利用できている。不満は多い。
・N（呼吸器・胃ろう）
発達センターにつながり、たんぽぽの体験に行く予定。身体障がい者手帳の取得。2 歳（最大３年）まで母は育休取れる予定で積極的に保育園の希望をされていない。理由として本児の通院が多い。
・O（酸素）
心臓疾患。母しっかりされている。現在酸素１ℓ対応。

・P（酸素） 上の子がふたばに通園。母が少し難しく、こだわりもある。 ・Q（酸素） 変化なし
次回の日程・その他
【保健センターの動きについて】 ・1.6 と３歳児健診は基本全員なので、他は任意なので全員を把握していない ・3.4 ケ月～1.6 歳の子育て見守り訪問が１０月から開始。外に出れないお母さんたちにアプローチしていく。 ・次回 WG は令和５年２月６日（月）１０：００～１２：００ふれあい交流館 福祉課・相談支援アドバイザー阪田氏にも参加依頼をよびかける。

資料 No.5-4

令和４（2022）年度　医療的ケアさぽーと部会

第４回　医療的ケア児等コーディネーターWG　報告書

開催日時：令和５年２月６日午前 10 時から

記録者：相談支援 OK サポート　堤

参加機関（参加者氏名）
しずく訪問看護ステーション：澤野氏　キッズラバルカ：川北氏　保健センター：早田氏　学校教育課：狩野氏（今回から参加）相談支援 OK サポート：堤 【欠席：子育て支援課、福祉課、相談支援アドバイザー】

議題(協議事項)
１、コーディネーターの予算化について ２、今年度 WG(第１回から３回)の情報共有、課題についてのまとめ ３、市内に居住する医療的ケア児の情報共有及び課題 ４、次回以降の日程調整・連絡事項等について
主な意見
【1】 (早田氏)8 月に検討した事項で、1 件ずつの実績払いもしくは全委託という案がでた。 (川北氏)コーディネーターがすべきことが何かを考え、検討してみてはどうか。 (澤野氏)県のアドバイザーとして動いているが、実績を上げることができていない。1 件ずつとなるとカウントのしにくさがある。訪問看護として入るケースもあり、単価次第だが、訪問看護で入った場合の方が高い場合があり、実績として上がらない可能性もある。複雑で切り分けにくさがあるのが現状。 (川北氏)みよし市のコーディネーターの定義として、退院時支援、環境アセスメント、 保育への介入、就学に向けての介入(教育)とライフステージごとに分け、配置している。 ・0 歳から３歳(保健センター) 環境アセスメント(自宅訪問)、退院前カンファレンスへの参加、相談支援専門員が入っていないケースの調整 ・3 歳から６歳(子育て支援課) 入園にあたることの相談、入園後のコーディネート(本人、家族、訪問看護、支援者)、相談支援専門員が入っていないケースの調整 ・6 歳から 15 歳(相談支援OKサポート) 就学、進学時の移行、相談支援専門員が入っていないケースの調整 ※基本的に相談支援専門員が入っているケースに関しては、相談支援専門員が調整。 みよし市としてコーディネーターの動きは上記とし、どう予算をつけるか。幸田町は委託費を 50 万つけ、一人が担う。岡崎市は相談支援事業の委託費を 40%上乗せして一人が担当。みよし市の場合、コーディネーターが半分行政でそれ以外が民間。1 件いくらとした場合、動き方に個人差があるため、全委託する形のほうがわかりやすいのでは。 (早田氏)行政としては委託契約の中に入れ込む方がよいのではないか。報告も毎月になる。 (澤野氏)毎月報告となると手が回らず、実績を上げていくことが難しくなる。 (川北氏)自立支援協議会は個人ではなく、部署から人を出してほしいという形のた

め、
委嘱ではない。各市町で協議会にお金を出しているところはない。
⇒医療的ケアさぽーと部会での協議事項として、幸田町に実績などを確認し、それを医参考資料として提出。令和６年度にスタートしたいと考えており、来年５月には決定している必要がある。２月 21 日に開催する医療的ケアさぽーと部会でコーディネーターとして動いた件数を報告したいと考えているため、提出してほしい。赤ちゃん訪問へ地区担と訪問したものも一件として挙げる。提出期限は２月 17 日までケアネット。
【2】
A さん：どこの支援機関にもつながっていなかったことが課題。支援機関に早めにつながれることが大切である。兄弟児支援も課題。入院中、障がい特性もあり、母親が付き添う必要があった。父親は夜勤のある仕事のため、父親が夜勤で不在のとき姉は一人で過ごす。姉も不登校になり始め、継続したケアが必要。入院中に母親ではなく付き添いを交代できる人がいるとよい。母親が自宅へ帰ることのできる仕組みが必要。病院では保育士が交代要員。リスクの高い子は別だが、ケアができなくてもナースコールができればよい。医療的ケア児の兄弟児の課題の一番は金銭面気にされるご家庭が多いこと。未就学児にファミサポの提案をするが、金額を気にするご家庭が多い。定期的な利用を勧めるが金銭的な負担がネック。訪問看護は本人不在では利用ができない。
B さん・C さん：近隣市町にレスパイト先がないことが課題。
※網掛けが課題
情報提供
(澤野氏)県内にも呼吸器をつけ、児発に通所しているケースがある。呼吸器をつけている子の場合のみ、医療保険ではなく公費で賄っている。就労している保護者が増え、児発利用前後に看護師が自宅にて対応している。呼吸器レスパイト事業(県事業)。対象者は呼吸器をつけている方のため、子どもだけではないが実施しているところは少ない。詳細不明のため、調べておく。
(【3】
(澤野氏)
・O さん
手技の獲得済。学校への訪問看護は今年度で終了予定。疾患児キャンプ(?)があるが、新型コロナのため開催が中断されているため、泊まりのイメージが付きにくい。その中で宿泊学習があり、本人はできると思うが不安があるため学校と相談し、同行予定。困った際にフォローするのみ。修学旅行も一人で行けると良い。
・R さん
公共交通機関の利用を自費の訪問看護を利用し、長期休暇中に行う。豊田市駅まで行き、母不在の中、吸引時の対応などを一緒に確認する。夏休みにオペ予定。医療的な面で困っていることは特にない。
・N さん
修学旅行で自信がつき、成長した。同調モード(?)を利用すると酸素時間が増える。時間は増えるがボンベがなくなる予測がつきにくい。酸素の計算式がある。中学校の先生から教員へのレクチャーの依頼があり、企画していく。
・S さん
愛知県医療療育総合センターのレスパイトが再開した。にじいろ、三河青い鳥の利用を検討していく。入浴介助については HS まほろを導入予定。母方祖父が他界。同居の父方祖父の認知症症状が出始め、包括支援センターが介入するもうまく介入することができなかった。
・K さん

学校に登校できている。便出しは昼食後すぐ帰宅するため、問題ない。姉が不登校気味。姉が行かない日は本人も休みがちになる。母も辛そうに見える。背髄腫瘍は経過観察。校外学習が 2 年時にあるが、本人は行かないと言う。行かないが口癖。便出しの課題がある。便器に座ることは本人にとってハードルが高いため、別の方法を検討する必要がある。
・Ｓさん
訪看しずくが介入開始。褥瘡がひどく入院、現在は退院しているが、繰り返す可能性あり。レスパイトは母親がコロナ感染を心配し、利用しない。月 1 回皮膚確認と必要時に訪問。生活面で困っていることはない様子。
(川北氏)
・Ｓさん
黒笹保育園に入園できず、たんぽぽへ行く。計画相談は社協中村氏が担当する。
・Ｒさん
定期的に会議を開催している。進学は名古屋聾学校を考えていたが、3 月以降に私立や公立高校の見学へ行く。
・Ｔさん
引っ越しが 1 年延期。令和 6 年に引っ越し予定。母親が OD し、胃洗浄を行う。引っ越し等がうまくいかず、不安になった様子。ひかりの丘みよしがなくなるが、サービスは不要と言っていたものの、OD を機に、and カイトを利用予定。
・Ｗさん
WG の事例検討対象児。たんぽぽへ行くことは考えておらず、アンドカイトといきものがたりへ行く。母親は令和 6 年度を目途に入園を希望しているがスムーズにいかない。事例検討し、母親の思いに寄り添っていく。
(早田氏)
・Ｗさん
1 歳半健診が 2 月 22 日にある。人に興味ある。母親は入園を希望している。
・Ｓさん
12 月 1 月に入院しオペ。姉がおり、2 月に入学説明会や発表会があり、入院時期と重なる。姉は 4 月に三好丘小に入学予定。
・Ｔさん
新規ケース。25 週 889g で出生。11 月に退院前カンファ。医療的ケアは酸素と呼吸器。体重の増加が良く、半年で 7000g に。もうすぐ 8 か月になるが、酸素は夜のみ。1 年で順調に外れるだろう。
・Ｉさん
11 月藤田 HP を退院。訪看しずくが入っている。プラダーウィリーを疑ったが違ったが、何かしら染色体異常があるだろう。しばらく呼吸器が必要。姉が来年度天王小学校 1 年生。風邪をひくと入院。刈谷の両親とは絶縁状態のため、大府の叔母が頼れる存在。
・Ｈさん
特に変わりなし。父親が転職し、平日休みになったため、受診同行可能。
・Ｔさん
ダウン症。哺乳瓶で少しずつ飲めてきている。母親、3 人目を妊娠中。困窮世帯。
・Ｏさん
心臓疾患。先日 1 歳半健診。上の子はふたば。マム訪問看護ステーションが入っていたが、今は入っていない。相談支援専門員が介入してもよいのでは。
(堤)
・Ｈさん
就学を見据え、導尿回数の確認、支援学級か普通学級かなど確認する必要がある。

【４について】 特になし。
その他
次回、令和５年５月を予定。情報共有はケアネットにあげていく。

資料 No.5-5

令和４（２０２２）年度医療的ケアさぽーと部会主催研修会報告書

開催日時：令和４年１２月１３日（火）
作成者氏名：キッズラバルカ　川北小有里

参加機関
みよし訪問看護（１名）訪問看護縁（１名）しずく訪問看護（４名） みよし市保健センター（４名）ヘルパーステーションまほろ（６名） いきものがたり（３名）ヘルパーステーションあずさ（１名） 医療的ケア児等コーディネーター（４名）福祉課（２名）　計２６名
研修内容
『講義内容』 ① みよし市医療的ケア児等コーディネーターについて（川北） ② 三河青い鳥医療的ケア児支援センター（西三河青い鳥医療療育支援センター齋木氏） ③ 医療的ケア児の現状とサポート体制について（しずく訪問看護ステーション澤野氏） 『グループディスカッション　みよし市の仲間を知ろう』 ・自己紹介 ・医療的ケアのある方の依頼や相談があった場合、率直に思うこと
グループディスカッションの意見
『医療的ケアのある方の依頼や相談があった場合、率直に思うこと』 ・どうやって関わっていこうか、１人で見ていかないといけないと思うと怖い ・母の協力があるのか心配、小さい子は心配だし自信がない、地域で支えていけれるといいな、相談できる相手がいるのはみよしはとてもいいところ ・相談の立場だと、現場をみていないのでもどかしい気持ちになる、かわいいけど怖い、医療の壁は高い、緊急時があった場合に１人で入る不安はある、怖いという気持ちが少しでも少なければ入る事業所も増えるのではないかと思う ・分からないから怖い、分からないことが分かれば大丈夫かと思う ・どんな子なのか不安だが、一度でも関わると大丈夫。同じデバイスを使っていてもこどもの動きや生活環境が違う、お互いに安心してから関わるように気を付けてる、別の事業所がどんなことをしているのか知ることで安心する。 『総評　澤野氏』 盛り上がっていて楽しそうな会でした。地域で始めた時に１人で抱え込んでいたが、助けてくれた人がみよしの相談員であった。強みは夫々あるため、抱え込まずみんなでやっていくことで「子供のために」という目標が達成されると思う。いい連携ができるといい。共通していたのは、怖い。それは知らないが大きいため、その子を知っていくことで怖さもなくなっていくと思う。
今後について
次年度、この研修を通し市内訪問看護で成人のみのところに医療的ケア児の関わりができないかアプローチをしていく。そのための相談体制を整える（訪問看護のバックアップ体制）。また、次年度繋がりを強化するため、定期開催をしていく。

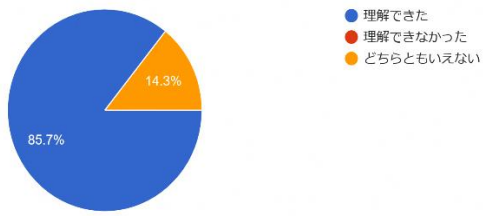
資料 No.5-6

第１回　医療的ケアさぽーと部会主催研修会　アンケート結果

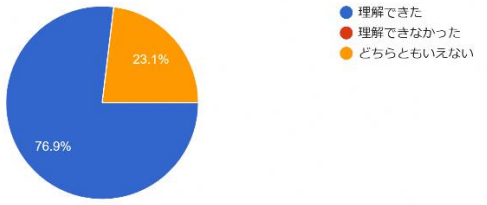
参加機関：市内事業所（いきもの語り・ヘルパーステーションまほろ・あずさ）
市内訪問看護ステーション（みよし訪問看護ステーション・しずく訪問看護ステーション）
行政（健康推進課・福祉課）」
医療的ケア児等コーディネーター

☆アンケート結果：２６名中１４名☆

講義①みよし市医療的ケア児等コーディネーターについて
14 件の回答



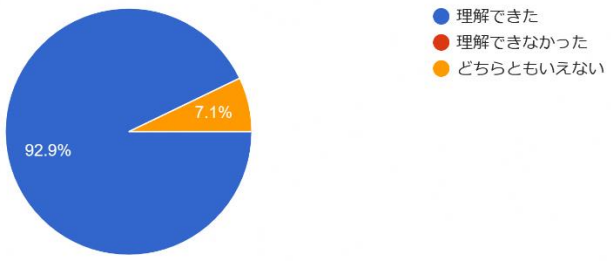
講義②三河青い鳥医療的ケア児支援センターについて
13 件の回答



障がい児にとって、①や②の存在があることで適切なケアを受けることができるし、自分らしく生きることをサポートしてもらえると感じました。
コーディネーターや医療的ケア児支援センターの役割を理解することができた。
ないものは決めていこうという前向きな取り組みに勇気づけられました。
各分野でそれぞれ役割があること。その役割が連携し協力し合えることで環境を整えることができる。微力ながらも私たちも力になれたらと思いました。
今までほんわかとしかわからなかったが、全体像と位置付け等がよくわかった。
コーディネーターの役割や、関係機関等を知ることができてよかった。
初めて聞く内容なので、講義で知識を得ることはできたが理解することまではできなかった。
青い鳥さんは、名前は知っていましたが、具体的にどんな施設なのか知らなかったので、わかりやすく説明してくださり理解が深まりました。

申し訳ありません。緊急訪問が入りきけませんでした
みよし市と愛知県の医療的ケア児の支援体制、コーディネーターのことがよく分かりました。

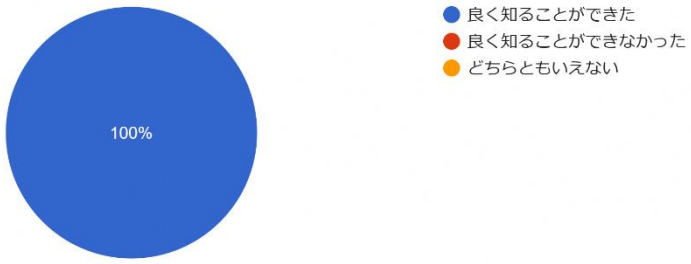
講義③医療的ケア児の現状とサポート体制について
14 件の回答



＂子どもを主語として＂頭ではわかっていても、つい支援者や他者が主語になってしまうこともあると思います。今日の澤野さんの講義を聞いて、改めて子どものために、子どもが未来を見たときにワクワクできる環境づくりに少しでも貢献できたらいいなと感じました。
医療的ケア児に関わる専門職の役割とは何か、といった原点に立ち返る事のできる講話で、とても良かった。
お子さんのためにを考えてきた結果が、市の体制づくりに発展していること、お子さんの自立につながっていることを知ることができ、とても勉強になりました。
サポート現状、サポート体制が整っている人、そうではない人がいる。その中でヘルパーとして力になれればと思いました。
こども自身をみるということが具体的によくわかった。すごくわかりやすくて共感出来ました。またゆっくりお話が聞ける機会があれば、また参加したいです。
誰のために、なんのために、主語は子ども、この言葉が凄く印象に残りました。子どもは育つ環境等で成長していくので、大人達が責任を持って支えていかなきゃいけないと思います。たくさん勉強して、現場に入って経験を積んでいきたいです。
知識として知ることができ素晴らしい事と思った。興味もわいたけれど、怖いが先に立ってしまう。
ところどころに澤野さんから私たちへ投げかけがあり、自問自答しながら聞きました。学校訪問はじまりの話など、ご家族発信であったことを初めてしりました。色々なことが日々の関わりからうまれていることを知り、これからもそのようなエピソードを逃さずキャッチして、変えていけることができることは良い方向に変えていきたいと思いました。他職種で。
素直に話を聞いてて涙が出そうになりました。
澤野さんの情熱を感じました
澤野さんの講義は分かりやすく、いつも講義を聞いたあとに仕事頑張るぞ！という元気をいただける素敵な講義です。お子さんのケアだけでなく、成長、発達や児のやりたいこと、気持ちに沿った看護をされてみえることが講義からよく分かりました。も

っとたくさんの方に澤野さんの講義を聞いてもらいたいです。

☆グループディスカッション☆ グループ内のメンバーについて
13 件の回答



☆グループディスカッション☆ 研修終了後もつながろうと思いましたか？
13 件の回答

普段、なかなかお会いできない方々とお会いし、短い時間でしたがお話しすることができて、同じ悩みや不安、考えを持つ方がいると知ることができました。同じ福祉という業界で働いているので、気軽に相談しあえる関係になれたらいいなと思いました。
他の事業所の活動について関心をもてた。
顔の見える関係作りができたため。
皆さんと力を合わせて、サポート体制を整えていけたらと思いました。
事業者名は聞いたことあるが、具体的に何をしてるのか、どんな人が従事しているのか、どんな支援をしているのか良く分からなかったが、今日、実際にお話ができたことで、安心してこれから相談ができると思います。良い交流の場を設けて頂きありがとうございました。
横のつながりは良い支援の繋がりだと感じました。
様々な職種間での連携が必要だと感じた。
多職種の方と知り合いになることは、得ることが多い。
みなさんのことを知ることができた。それぞれの職種毎ならではの悩みや気持ちがあることが知れた。みなさんとても素敵な方だった。どんな風にこの職種にたどり着いたのか、などもっと詳しく皆さんと話したいなと思った。
何かお役に立てればと思いました

研修でお会いできて、直接お話ができたのでこれからはケースの相談などもしやすくなるのかなと思います。

☆研修の感想☆

様々な職種の視点からの意見を聞けて参考になった
それぞれの立場で悩みを抱えながらケアしているという事、職種は違えど目指すところは共通していること、顔の見える関係づくりの大切さを改めて感じる事ができた
色々な方の話を聞けて(悩みや想っていること)、勉強になりました。皆さん悩みがある中、どうにかしたい。何かカになりたい。と思う気持ちは皆さん一緒だということがわかりました。これからもヘルパーステーション まほろはみよし市、必要としてる方の力になれるように頑張っていきます。
それぞれが怖い思いを抱きながら関わっていたことがわかった。そして、横の交流ができるとお互いに安心して関わることができ、本児やご家族の方の安心にもつながるとよくわかりました。
日頃からの不安、同じ思いされてる方も見えてとても良い勉強させていただきました。 子供であれ、老人であれ一緒だと。その、お手伝いをさせて頂けたらと思います。 ありがとうございました。
初めて参加させていただきましたが、緊張してあまりうまく話せなかったですが、 色々な経験談や現場での話を聞き、これからも頑張っていきたいと思いました。
初めての方法で楽しかった。もっと時間があるとなお良かった
依頼を受けてからの流れを事業別で聞けたので面白かったです。
時間はやや短かったですが楽しかったです
はじめ緊張しましたが、自己紹介と実は私〇〇なんですのおかげで話しやすい雰囲気になりました。グループディスカッションでは職種は違えど困っていること、悩んでいることは同じだなと思いました。

☆次年度、研修等でやってみたいこと☆

その都度、市の医療ケア連携状況を把握し、勉強したい
呼吸器について、種類や扱い方、注意点等が具体的に知ることができたら嬉しいです。 あとはみよしでサポートしている事業者の種別や活動内容などが知りたいです。
実際の事例を用いた検討会。
今度は、事例に対してこうしたらどうか？ああしたらいいか？を違う事業所同士で話してみたいです。
今回のような事業所さん、訪問看護さん等との交流ができる研修会が定期的に開催されるといいなと思いました。

まとめ

　初めて市内事業所・訪問看護対象の研修会を開催し、多くの方に参加していただき、医療的ケアの関心度の高さを知ることができた。医療的ケア児等コーディネーターやアドバイザー、また医療的ケア児支援センターの周知につながることもできた。

グループディスカッションでは、医療的ケア児等に関わっている市内事業所等でつながる機会が今までなかったため、『つながり』をテーマに、まずは人となりを知ること、そして医療的ケア児等に関わる際に共通していることが『何か』を共有する機会とした。その結果、『知らないから怖いと思う』がキーワードとしてあがった。

次年度、市内で医療的ケア児等を支える仕組みづくりのため、事例を通し各事業所等が横のつながりを意識した研修会を年３回開催できるようにしていきたい。

資料 No.5-7

令和４（２０２２）年度　第２回医療的ケアさぽーと部会　報告書

開催日時：令和５年２月２１日（火）
作成者氏名：　キッズラバルカ　川北小有里

参加機関（参加者氏名）
相談支援地域アドバイザー：阪田氏・愛知県衣浦東部保健所：中山氏　増田氏 豊田特別支援学校：杉田氏・みよし市民病院：尾崎氏・NPO 法人いきもの語り：水井氏 愛知県医療的ケア児等アドバイザー：澤野氏・健康推進課：早田氏・学校教育課：菅田氏 子育て支援課：本松氏・福祉課：橋本氏　児島氏　立石氏・キッズラバルカ：川北
議題（協議事項）
１　あいさつ ２　報告事項 （１）　周知啓発 WG（２）部会主催研修会（３）医療的ケア児等コーディネーターWG ※事業報告書についても報告 ３　協議事項 医療的ケア児等コーディネーターの予算化について（当日配布資料） ４　事例検討 令和 ３ 年出生。両親と３人暮らし（祖父母は遠方）。胎児多発奇形（両側唇顎口蓋裂・無 顎症・四肢形成異常等）。無顎症のため、上気道狭窄が強く気管切開し、CPAP 使用。 ５　その他
主な意見
２（１）周知啓発 WG 本松氏：自宅訪問にいき、最初どうお声がけしていいか分からなかった。 水井氏：通所施設勤務なので自宅の様子をうかがう機会が普段ないため、色々分かった。 ２（２）部会主催講演会 水井氏：怖いというワードが響いた。怖さを忘れることが逆にこわいため、気を付けてやっていかないといけない。 児島氏：直接関わった経験はないが、やはり怖さはある。ありのままのところを出せる場があり、共有できたのはよかった。 菅田氏：その子に寄り添わないと怖さは分からない。多くの人に知ってもらうことは大事である。 杉田氏：怖さが何を指すか分からないが、豊田特別支援学校の教員は見慣れている。家族から気を付けるポイント教えてもらい、看護師と情報共有している。 尾崎氏：看護師の私たちより母の方がその子のことを知っている。保護者から情報をもらうのは大事だし、回数を重ねることが大事。名前も憶えて、声もかけ、声をかけられる関係性ができるとよい。市民病院にも小児科の医師も新しくきて、前向きな先生。 川北：みよし市民病院に重心の方も含め知ってもらう活動をしたこともある。本人も家族も知ってほしいと思っている人は多い。一緒にできると良いので、次年度からみよし市民病院との連携を検討していきたい。 ２（３）医療的ケア児等コーディネーターWG 早田氏：WG４回開催。４回目では、１年通した課題の共有をした。医療的ケアが必要な子の母親が職場復帰するケースが増えている。どこが受け入れてくれるか。呼吸器し

スパイト事業というものがあり、愛知県にある。どのようにしたら利用できるか。また、兄弟支援が必要なケースも多く、母親も一緒に入院するケースがある。兄弟も不安定になり、不登校になることもあると聞いている。母親以外に付き添えるケースはないか。他にも、みよし市でレスパイトできるところはないか。近隣で気軽に使えるところがあると良い。
川北：WG では、市内の医療的ケアが必要な子（１８歳未満）の全把握をしている。課題として受け皿の問題と兄弟の問題（未就学の子で課題が多い）がある。今話しのあった呼吸器レスパイト事業は、どのようなものか。
澤野氏：呼吸器を装着している子に対して、福岡、東京、千葉、ＡＬＳを想定した事業？県の事業である。ただし、登録している訪看しか使えない。医療保険と併用できるため、１日子どもを見て、その間に母親は仕事することが可能。今、「にじいろの家」が飽和状態。受け入れ体制が整っていないのに受け入れたことで、小さな事故が発生していると聞いている。現在、受け入れ停止。箱ものができるとみんなが集まる。在宅でみる、地域でみるという視点を持っても良い。県の事業などと合わせても良いのではないか。利用に関し、呼吸器としか書いていない。実際呼吸器の有無だけではなく、デバイスやチューブがついて動いている子の方が大変なこともあるため、一概に言えない。
川北：今回課題としてあがっているのは、兄弟支援とレスパイト。レスパイトは、来年度市民病院と進める。兄弟支援はどうしたらよいか。
中山氏：兄弟支援の方法までは聞いたことない。保護者からの相談はあるが、医療的ケアが必要な子の相談の方が多い。
澤野氏：弟が救急搬送され、母がついていく。姉が返ってきたときに誰か地域の人が見てくれるような体制があると良い。
阪田氏：地域での見守りが大事。
本松氏：一時保育は月１回から２回に変更。保育園に預けられる範囲は広げている。今すぐ対応してほしい、という場合はまだまだ難しい。緊急一時があるが、お断りするケースもある。子育ては、地域でみんなでという思いはある。
菅田氏：兄弟の相談は多い。医ケア児に限らず。学校や園では多い。学校でどこまでできるか。個別対応は担任等するが、難しい。どのようにしていけると良いか。そういったことをコミュニティスクールで、地域と共にある学校で進めている。
杉田氏：送迎の時に兄弟がついてくるので、声かけはしているが、支援はない。母からの話で、なかなか関わってあげられない、習い事の送迎、兄弟を送迎するので生徒を休ませます、という場合もある。
川北：課題に対してどのように取り組むかWGで検討する予定。兄弟支援を他市町で行っていることなど知っていたらまた教えてほしい。
３
川北：各市町で予算が出ているところがある。みよし市はライフステージごとにコーディネーターを置き、任命証を発行している。それぞれバックボーンがあり、コーディネーターとして動いているのか、バックボーンで動いているのか分からないという意見もある。澤野氏は、部会、WG、しずく訪看、しずく訪看管理者、アドバイザー、どれで動いているのか分からない。県の実績をあげようと思うと、協議会主催になっているので難しい。協議会で予算をと言われてしまう。岡崎市と幸田町は、一人に委託されている。みよし市の相談員は、フットワークが軽く、動いてくれる。相談員も医療機関とやり取りはするので、すみ分けがしづらい。相談員としてやるのか、コーディネーターとしてやるのか。アドバイザーとしてやるのか、コーディネーターとしてやるのか。もう少し整理が必要だと思うので、再度検討するため、今回は協議なしでお願いしたい。
阪田氏：予算化する時は、根拠づけが必要。今はそこが弱い。予算ありきでやるのは違う。役割の整理が必要である。課題をどのように共有するかについて、コーディネートはそれに近い。どのようになると良いかイメージする。根拠を作る。予算は絶対にいる

と思う。
川北：岡崎は、相談委託×0.4 を予算化。豊川市もやり始めている。一人に予算をつけるのは簡単だが、みよしは専門性がある人にお願いしているので難しい。
４
★令和６年４月から保育園入園に向けて、どのようなことが課題となるか。また、解決するためにできることは何か。本児は退院カンファレンス時に知的発達は問題ないと医師から説明あり。
早田氏：１歳７か月という年齢を考えるとゆっくり。母親が床におろすとハイハイして寄ってくる。視線を合わせると嬉しそうな顔をする。
本松氏：どの園を選ぶかにもよる。園は集団。職員の確保は必要。園でこの子に対応することがあれば、看護師配置等必要。訪看等に委託する、等考えていかないといけない。命を預かるため、安全、安心。この子をまずは知ることから。この子の居場所、生活する場を考えていかないとダメ。発達を見極めていきながら考えられると良い。１歳児だと１８人。０歳児は９人。この子が生活する場として考える。年齢ではない。
早田氏：今月１歳６か月の健診がある。細かい動きがどのくらいできるか見てみる。どのようにコミュニケーションをとるのかは課題。どのように人に伝えるか。受け取る部分はできている。先生にどのように発信していくのか。
中山氏：インシュリン注射が必要な子が多い。ケースとして重い子は経験としてはない。
水井氏：動く子と動かない子と同じ空間でぶつからないように配慮するのは大変。距離を置いたりして対応している。活動は一緒にさせたいので、職員が確実について対応している。安全の確保が課題。
菅田氏：一番は安全面。人の配置がどのくらいできるか。園だと２階もあれば平屋もある。年長は２階にいかないといけないとダメだった。この子は医療的ケアがどこまで必要なのか。
尾崎氏：この子にとって何が大事か。健常者と一緒に生活するのがよいのか、障害者と一緒に生活するのがよいのか、誰にも決められない。遊びまわって動き回ってる子たちを本児がどう思うのか考えると切ない。一緒にいるが、一緒にはやっていないこともある。
杉田氏：豊田特支には教育課程３つある。Ａ、Ｂ、Ｃ。Ｃが重度。Ａは候補に２人しかいない。Ｃが一番多い。Ｂの中でも知的発達が良い子はいるが、身体で経験がない。家庭がどれくらい子に社会経験をさせるかでだいぶ変わってくる。
川北：療育手帳を持っていない子でも、経験値の少なさから大人になった時にだいぶ違う。可能性の芽をつむのはNG。いろんなことを経験させることが大事。環境の配慮で私たちにできることはないか考えられると良い。
澤野氏：動画を見て。足を見ると、歩行は厳しい。車いすやバギー？動けるようにはしてあげたい。バランスのとり方。保育園でどのように環境を作ってあげられるか。ベビーロゴ。指先で少し操作するだけで動く。実年齢と発達年齢の差を環境を作ることによりどのくらい埋められるかで小学校が決まる。胃ろうと吸引は、資格さえとれば保育士でもできる。基幹カニューレはダメ。このケースについては看護師配置が必要だと思う。他のケースであれば、定期巡回でも可能だと思う。この子を安全に支援するための保育士の環境を医療者が作る。ハード面、お金をどこにどのように使うか。
川北：看護師配置をするためには、どのようなことが必要か。R６年度に入園希望するとしたら。いつまでにどこで話せばよい？
本松氏：今の段階から情報を教えてほしい。保育士ができる行為だけでなく、看護師が必要だということ。車いすの子を受けている園がある。バリアフリーではないが、２階の部屋も使っている。
川北：胃瘻で食事介助はいらない。訪看で月１回しか関わりがない。これがよつばだ

と、どうか。 菅田氏：今すぐ相談して動かないと無理。職場復帰を考えるなら、園での対応が可能。よつば、園で難しければ幼稚園で対応か。学校では、親が送迎するなら隣の学校でも可能。Ｒ９年までには小学校の環境は整えないといけない。 児島：Ｒ６年度は２歳児のため、よつばも幼稚園もダメ。保育園のみ。Ｒ７年度は未定。 川北：早めに子育て支援課と検討する。 ５ 川北：Ｒ５年度に中学１年生になる子の研修会を４月１２日に開催予定。各ライフステージの研修担当を決めたい。個別で声をかける。 菅田氏：医療的ケア児等コーディネーターの取組は、すごいありがたい。情報をもらえる。ベッドを導入できる予算をつけられたりできる。情報共有ができるのがありがたい。次年度以降も継続できると良い。学校での情報も部会等で出せると良い。 川北：医療的ケア児等コーディネーターの資格を今年度は学校の先生にとってもらった。さらに横のつながりができると良い。 ６ 阪田氏：やはり、事例がベース。早急に動かないとダメ。すぐにチーム編成。チームを作ることで地域に還元できると思う。本人が自分で決めいてく、どうしたいか、意思決定支援が大事。事例をすることで変化が起きる。周りが受け入れて良かったと感じられるように。より良い共生社会になるように、横のつながりがみよしは持てる環境があるので、チームで支えられると良い。
決定事項（まとめ）
○次年度、各ライフステージごとに研修委員を決め研修企画を行う。また、課題としてあがったレスパイトと兄弟支援を検討していく。 ○事例検討について、早急に子育て支援課と動きの確認をする。